

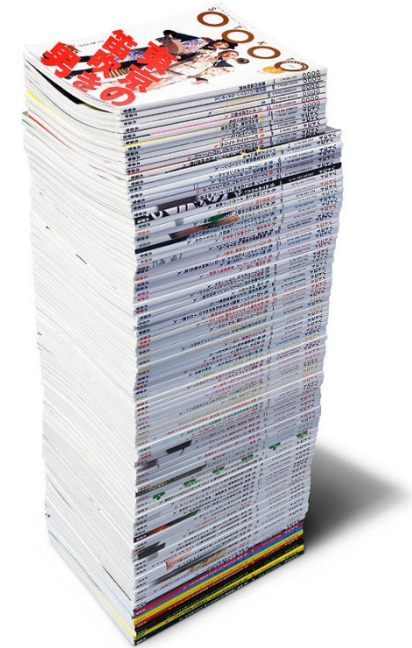
ゴミ、捨てんなよ!



# ぼくらは地方で幸せを見つける



# 自己紹介

























僕たちは  
島で、  
未来を  
見ることに  
した

株式会社巡の環 著  
阿部裕志（代表取締役）  
信岡良亮（取締役）



この本に書ききれなかった  
たくさんのおいへんなことを思うと、胸が熱くなる。  
若さと自然と人々の絆、どれが欠けても成功しなかった  
ある奇跡の本です。

——よしもとばなな

日本は世界の離島だ。  
離島から日本を変え、  
世界を変える。

——養老孟司

こうち、**再** **新** 発見!

TOSABUSHI

# とさぶし



高知家

【第21号】  
二〇一七年

TAKE FREE







あなたと長野市の  
ご縁をつなぐサイトです

ナガラボはながのシティプロモーションの一環です

ながのご縁を  **ながのシティ...**  
「いいね！」済み

- 特集 07
- 特集 06
- 特集 05
- 特集 04
- 特集 03
- 特集 02
- 特集 01

特集 7



本と、  
長野が  
つくる場所

指出一正  
Kazumasa Sashide

# ぼくらは地方で 幸せを見つける

ソトコト流ローカル再生論





# 関係人口をつくる

定住でも交流でもないローカルイノベーション

ローカルジャーナリスト・田中輝美

人口減少地域を救う  
新しいキーワードは  
「関係人口」だ！

Double  
Residency

Local  
Volunteering

Regular  
Visits

Donating  
(Hometown  
Tax Option)

Local  
Specialty  
Shopping

「移住」しなくても、  
地域を学びたい！  
関わりたい！  
過疎先進県・島根の取り組み  
「しまコトアカデミー」から、  
地域との多様な関わり方を考える。

企画・シーズ総合政策研究所

木楽舎  
KIRAKUSHA

ソーシャル&エコ・マガジン 観光以上、移住未満の第三の人口! 「関係人口」の大特集!

# ソトコト

No.224  
February  
2019 Anniversary  
SOTOKOTO  
823YEN

関係人口の  
つくり方  
Q&A

観光以上、移住未満。

# 関係

# 人口

# 入門

Think Local, Think People

ソトコト 編集長 藤田 浩二 (No.224号) 2019年2月1日発行 (毎月1日発行)



しまこトアカデミーとは



講座情報



講師・メンター



受講生の声



ニュース



インターンレポート



“移住”しなくても  
地域を学びたい！  
かかわりたい！



























































ひろしま  
さとやま未来博  
2017  
これからのニッポンの  
見本になる

 さとやま未来博コンセプト

 さとやまカレンダー

 シンボルプロジェクト

▶ 廃校リノベーション

▶ さとやまソーシャル  
ライド

▶ さとやま未来展

▶ さとやまマイルラン

▶ さとやま隣人祭り

 ココロザシ応援



# これからのニッポンの 見本になる

里山には、未来をつくっていく手応えがあります。  
里山には、自分ごととして関わる楽しさがあります。  
そして、ひろしまの「さとやま」には、あなたを待っている仲間がたくさんいます。



# さとやまよ、甦れ！広島に眠る廃校をみんなの居場所に再生しよう

広島県 地域 地域文化 まちづくり 寄附型



湯崎 英彦 (広島県知事)

寄附総額 38,315,000円  
目標金額 30,000,000円  
寄附者数 524人  
残り日数 終了しました

寄附型 All-in

**プロジェクトが成立しました！**  
このプロジェクトは  
2017年3月18日(土)23:00 に成立しました。

いいね! 6,679 シェア ツイート B!ブックマーク 3

プロジェクト概要

新着情報 24

応援コメント 524



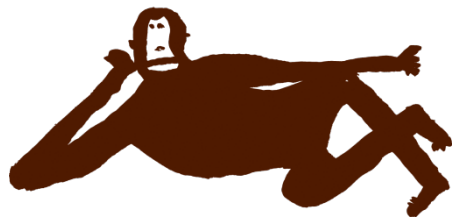
資金調達に興味のある方はこちら  
Ready for



# 宮崎を、世界一 チャレンジしやすいまちに！



ゴミ、捨てんなよ！







「こゆ創設」のスタッフと土産農文和員（前列中央）。「こゆ」は新富町を含む児湯郡という地域名から取った。株式会社の子会社をソノバレーションしたオフィスの前で。

Social Business #1 **こゆ地域づくり推進機構** <http://koyu.miyazaki.jp>

新富町の旧・観光協会を法人化して設立。持続可能な地域づくりを目指す！

「こゆ地域づくり推進機構」は、新富町の観光協会を解散し、役場が設立した地域会社。「楊貴妃ライチ」など特産品の開発・販売、ふるさと納税返礼品のPRや配送、起業家の育成を行う。元・役場職員で執行理事の岡本啓二さん（組合写真・前列右2人目）は、「ふるさと納税返礼品や特産品開発で得た利益を



●開放的なオフィス。●児湯郡の特産品直販サイト「こゆショップ」の形造り作業。●「元湯スタートアップ大学」の受講生、キョウリ農家の穂保美一さんと伊藤英治さん。●「AAVU宮崎」で資金を募り、新富町で在交種のキョウリを育てたい」。●土産の小年田明教さんは、「みんなが楽しめるシカキ製品加工所をつくりたい」。●楊貴妃ライチ、大きい！

ついていけないに諦めてしまうケースも少なくないので、もちろん、ビジネスを継続するために頑張って儲けることは大事です。でも、儲けすぎなくてもいいですよ。」

自然体で、自分らしく、バランスを取りながら、持続可能なやり方で実践してこそソーシャルビジネスだと、そんな考えを持って活躍する宮崎のプレイヤーたちを紹介しよう。

自然体で、持続可能。宮崎流ソーシャルビジネス。重さは50グラム以上。左ページ下の写真のように、手のひらに載せるとその大きさも実感できる。皮を剥き、肉厚の果肉を口いっぱいにはしゃべれば、甘い果汁があふれ出てきて、「うまつー」と思わず笑顔になる。「男湯郡新富町のライチですよ」と言うのは、この「楊貴妃ライチ」を

販売する、地域プロデューサーで「こゆ地域づくり推進機構」略称、こゆ財団一代表理事の豊藤潤一さん。宮崎県を世界にチャレンジしやすいまちにしようと呼びかける。宮崎県ソーシャルビジネス界のキーパーソンだ。「ライチは国内市場の90パーセントが海外産。スーパーのライチも多くが台湾産の冷凍品なんです。新富産の生の楊貴妃ライチを食べたら誰もがそんな笑顔になりますよ。」

世界一チャレンジしやすいまちを目指して。宮崎県は、ソーシャルビジネスの新天地！

ソーシャルビジネスを始めるには、宮崎県が最適な地域かもしれない。その理由は、新しいソーシャルビジネスのビジョンを持ったプロデューサーと、失敗を恐れず、でも自然体で、持続可能なビジネスを志す熱い仲間がいるから！

photographs by Yusuke Abe text by Kentaro Mossi

販売する、地域プロデューサーで「こゆ地域づくり推進機構」略称、こゆ財団一代表理事の豊藤潤一さん。宮崎県を世界にチャレンジしやすいまちにしようと呼びかける。宮崎県ソーシャルビジネス界のキーパーソンだ。「ライチは国内市場の90パーセントが海外産。スーパーのライチも多くが台湾産の冷凍品なんです。新富産の生の楊貴妃ライチを食べたら誰もがそんな笑顔になりますよ。」



Social Business #1 aya100 <http://aya100.jp>

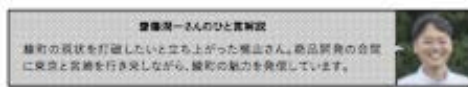


成功も失敗も挑戦しなければわからない。 綾町の未来へ向け、前進あるのみ!

「綾町の魅力を100年後に伝える」をコンセプトに、持続可能なビジネスモデルの構築を目指すプロジェクト「aya100」。中心メンバーの梶山篤さんは、「商業林の豊かな自然によって生み出される農産物から、綾町ならではの商品を開発し、販路

力を見つめ直し、次の100年に向けた新たな綾町をついていきたいです。「aya100」の販売部門として「梶山商店」の売り上げは芳しいとは言えないが、「オープンして半年が経った

今が盛り盛りどころ。生産者とのつながりを生かし、農産物やオリジナル商品を開発・販売し、販路を広げていきます。挑戦してみないとわかりませんが、上力を込めて頑張ります。



梶山篤さん(左)と奥野真由美さん(右) 綾町の現状を打破したいと立ち上がった篤さん。奥野さんの会社から綾町へ移住しながら、綾町の魅力を発信しています。

Social Business #3 MUKASA-HUB <http://mukasa-hub.com>



宮崎に必要なのは「人づくり」。 挑戦する若手起業家を応援できる場を提供!

「ローカルに根付いたソーシャルビジネスをどれだけ(人)生み出せるか、これが、ソーシャルビジネスやベンチャービジネスに挑戦する若い人々を後押しできる自由闊達な場になれば」と村岡さんは話す。「地域づくりの主役は20~30代の若者。自分の活動に責

任を持ち、地域を背負う覚悟のあるローカルヒーローをみんなで応援できる文化をつくりたいです」と、若手起業家にエールを送る。「MUKASA-HUB」は、地域コミュニ

ティの拠点にも「高岡町は市町村合併で宮崎市になりましたが、近隣町村ともアイデンティティは昔のまま。地元の人や企業も応援したい」と、地域に根付いた運営を目指す。



村岡さん(左)と奥野真由美さん(右) 宮崎にとって、村岡さんが切り開いてきた道は貴重です。行政とも連携し、交流する地域づくりの姿勢を、若いプレイヤーが学んでいます。

Social Business #2 若草HUTTE <https://m.facebook.com/wakakushutte>

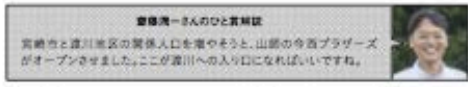


綾川地区の山部として林家を受け継ぎながら、山と街をつなぐ交流の場をオープン!

宮崎市の若草通商店街の路地りにできた、カフェ・バー&野菜直売所&ワークスペース「若草HUTTE」。オーナーは東臼杵郡美郷町綾川地区の山部・今西正さんと妹さん兄弟。「綾川は人口300人ほどの集落。市内から車で2時間以上か

りますが、木材や農産物は豊か」と妹さん。兄弟は綾川産の農産物を販売するサイト「綾川山村商店」を運営し、「その手応えを感じたので、街に実店舗を構えたくなって」とも。林家の魅力や課題も知ってもらいたい、パークカウンターには祖父が植えた、父が

育て、妹さんが収穫した40年生のスダジイの一枚板がデーンと。「お客さんと会話のきっかけにもなるかな」と。この建物、15年前は高校生の妹さんも働いていたアパレルショップだった。「宮崎の風情(笑)。でも、郊外に大層スーパーができ、商店街は活気が失い、ここも空き店舗に。仲間とリノベーションしました」ともう一度、宮崎の若者が集れる場になることを目指す。



山部一さんのひとこと 綾川市と綾川地区の若年人口を減らすと、山部の今西ファミリーがオープンしました。ここが綾川への入り口になればいいですね。

Social Business #3 FAAVO & 宮崎ベースキャンプ&インタークロス <https://faavo.jp> <http://www.facebook.com/intercrosscity> <https://intercross.com>

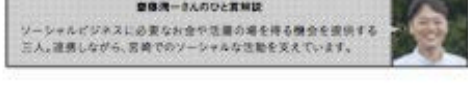


地域に特化したクラウドファンディング「FAAVO」と、宮崎を活性化させる「宮崎ベースキャンプ」と「インタークロス」。

都会に暮らしながら地元に関わりたいと思った齋藤隆太さんが、2012年に東京で立ち上げたクラウドファンディング「FAAVO」。地元・宮崎を皮切りに、全国69の地域に展開している。「地域でプロジェクトを立ち上げるとき、『お金がない』と諦める人も

います。クラウドファンディングを設けることで、その思いを訳したかった」。また、場づくりで若者の活動を応援するのは、市職員で「宮崎ベースキャンプ」代表の地産地消さん。「街のゴミ拾いを行った後、参加者で話し合う機会をのぞいて、街の課題を見出し、プ

ロジェクトを立ち上げようとする若い人々を後押ししています。一方、宮崎での探求支援や職業訓練、行政ともU-I-Tターンや就職支援を行っている「インタークロス」代表の小川智矢さんは、「今後は県内の小さな地域の人材育成や活性化を支援していきたいです」と語る。宮崎を愛する先輩プレイヤーが、ソーシャルビジネスへの扉を広げている。



山部一さんのひとこと 宮崎は、ソーシャルビジネスに必要な社会や企業との連携の場を提供する三人、連携しながら、宮崎でのソーシャルな活動を受けています。





# 地域プロデューサーに聞きました。齋藤潤一さんの「ソーシャルビジネス論」。

地方に必要なのは、「セーフティネット」の場です。

「地方に必要なのは、「セーフティネット」の場です。」  
齋藤潤一さんは、ソーシャルビジネスの第一人者として知られています。地方の活性化や持続可能な地域づくりを目指す方々にとって、彼の考えは大きなヒントを与えています。

「地方に必要なのは、「セーフティネット」の場です。」  
齋藤潤一さんは、ソーシャルビジネスの第一人者として知られています。地方の活性化や持続可能な地域づくりを目指す方々にとって、彼の考えは大きなヒントを与えています。

「地方に必要なのは、「セーフティネット」の場です。」  
齋藤潤一さんは、ソーシャルビジネスの第一人者として知られています。地方の活性化や持続可能な地域づくりを目指す方々にとって、彼の考えは大きなヒントを与えています。



地域プロデューサー 齋藤潤一さんの「ソーシャルビジネス」3か条

- 一、中核となることを心がける。
- 二、セーフティネットの場を用意する。
- 三、新たな起業家を育成する。

ソーシャルビジネスのヒント

小さくても、持続可能で。

自然体で、自分らしく、バランスよく、持続可能なやり方で実践するソーシャルビジネスを！

## Social Business no.0 新緑園 <http://www.shinyokuen.net>



お茶を知らない若い方に淹れてあげると、「全然違い」と驚かれます。ゼロから魅力を伝えるのも楽しい」と笑顔。「新緑園」は地域とのつながりも大切にしている。「新茶deビュティク」とい

お茶を知らない若い方に淹れてあげると、「全然違い」と驚かれます。ゼロから魅力を伝えるのも楽しい」と笑顔。「新緑園」は地域とのつながりも大切にしている。「新茶deビュティク」とい

お茶を知らない若い方に淹れてあげると、「全然違い」と驚かれます。ゼロから魅力を伝えるのも楽しい」と笑顔。「新緑園」は地域とのつながりも大切にしている。「新茶deビュティク」とい

## Social Business no.1 へべす農家 <http://superyasa.jp.com>



お茶を知らない若い方に淹れてあげると、「全然違い」と驚かれます。ゼロから魅力を伝えるのも楽しい」と笑顔。「新緑園」は地域とのつながりも大切にしている。「新茶deビュティク」とい

お茶を知らない若い方に淹れてあげると、「全然違い」と驚かれます。ゼロから魅力を伝えるのも楽しい」と笑顔。「新緑園」は地域とのつながりも大切にしている。「新茶deビュティク」とい

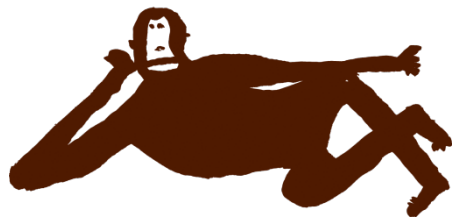
お茶を知らない若い方に淹れてあげると、「全然違い」と驚かれます。ゼロから魅力を伝えるのも楽しい」と笑顔。「新緑園」は地域とのつながりも大切にしている。「新茶deビュティク」とい



クリエイティブ・ライフの地。  
奈良・奥大和で起こっていること。



ゴミ、捨てんなよ!







なぜ、この地域がおもしろいの?

なかはとでもオシャレ!  
女性も訪れていますよ。



『オフィスキャンプ東吉野』をハブとして、広がりを見せるクリエイティブ・ライフ。

ヒターンした長屋です。新しい生活にドキドキ!

「吉野さんの赤ちゃんを見て、「それでいこう!」」

「オフィスキャンプ東吉野」が誕生したきっかけは、10年前。キーマンである坂本大祐さんが奈良県・東吉野村に移住したことに始まる。坂本さんは大阪でフリーランスのクリエイターとして働いていたが、無理がたたって病気を患い、入院。収入も絶たれたため、両親が東吉野村に建てていたアトリエに移住した。

「当時の東吉野は若者が少なく寂しかったです。大阪や名古屋など都市圏で仕事をして、そのまま友達の家泊まったり。東吉野で活動することはほとんどなかったですね」

都市圏と東吉野を行ったり来たりする生活が続いていた頃、坂本さんはある雑誌の取材を受けた。テーマは移住。取材に同行していたのは、奈良県移住・交流推進室長の福野博昭さんだった。取材後、福野さんは「県の広報やデザインの仕事を奈良の若者がやってほしいんやけど」と坂本さんにもちかけた。「以来、県の仕事にも携わるようになりまし



山や川に囲まれた、豊かな自然のなか、シェアオフィスや coworking スペースとして利用されている。

NEXT! クリエイティブ・ライフを楽しむ人がこんなにも! Creative Life 1

オフィスキャンプ東吉野 URL >>> <http://officecamp.jp>



福野氏の福野です。奥大和でものつくり!



この古民家を見つけた。吉野と長男の間人です!

発案者の坂本です。数回に立ち寄ってね!

た。そのなかに、クリエイティブ・ヴィレッジ構想があったのです。

クリエイティブ・ヴィレッジ構想とは、高齢化によって産業が衰退する奥大和に、若いクリエイターや職人を呼び込むプロジェクトで、坂本さんと福野さんが温泉に浸かりながら話したことから生まれた構想だそう。話し合いを重ねた二人は、東吉野村の水本実村長に直談判に向かった。すでに移住していた、坂本さんの友人でプロダクトデザイナーの菅野大門さんも同行したが、連れていった、まだ赤ちゃんだった長男の間太くんを見た村長が、「こんな赤ちゃんを連れてきた若者も村に移住するのか」と驚き、「それでいこう!」と

## 新しいクリエイティブ・ライフの地。 奈良県・奥大和で始まっていること。

奈良県南部・東部の急峻な山や清流に囲まれたエリア、奥大和。その一つ、東吉野村に「オフィスキャンプ東吉野」が誕生し、ものづくりを愛するクリエイターが集まって、村を元気にしています!

photographs by Hiroshi Takaoka text by Kentaro Matsui

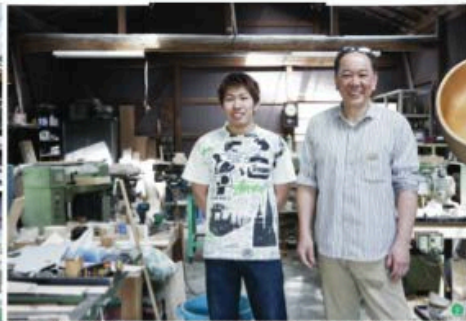
念願の古民家を手に入れることができた。

「それが、『オフィスキャンプ東吉野』です」と坂本さん。イメージパースと平面図を描き、地元の建設業者にリノベーションを依頼した。建設資金は、村が用意した資金を元に、国と県から補助金を得て賄った。

オープンして1年。「オフィスキャンプ東吉野」を人口に、東京、大阪、ニューヨークなどから5組10人の若者が東吉野に移り住んだ。奥大和に在任のクリエイターが仕事場として利用したり、ものづくり職人が訪れたり、クリエイティブな場として賑わっている。その奥大和在任のクリエイターや職人を紹介しよう!



アップル・ジャック



①お茶は買う人が選べるよう、寸法、肉厚、重心を調整に加え、吉野檜の舟形は保温性を考え、厚めに製作。バターナイフは握りやすいよう持ち手の削り方に工夫が、②小林さん(右)と高橋さん(左)、③山あいの工房、④丸くろでコップを削る小林さん、⑤受付きの山板の一角。

吉野檜や吉野杉で主に器をつくる小林清孝さん。飛行機が好きで入った航空自衛隊を28歳で辞め、故郷・川上村で木工を始めた異色の作家だ。「1985年に、森林組合員の冬の仕事を つくるために「吉野杉

伐り出しから加工まで行う木作家。20歳の長男が後継ぎとして奮闘中!

工房(川上村木工センター)が設立され、木工の指導者として就職。以来25年間、組合員に木工を教え、

5年前に独立しました。自身の山から木を伐り出し、製材から加工まで一人で行ってきたが、最近、長男の

小林清孝さんにとって、ものづくりとは? 答え よいものをより早く、楽しみながら。今、吉野杉の食器づくりにまっています。杉の特性を生かした、よい器をつくりたいです。

下市木工会 市 ichi

兵庫県三木市の「徳永家具工房」で修業していた木工職人の森幸太郎さん。吉野杉を使った家具づくりを究めながら、研修生を育成している。特徴は、削匠ゆずりの鋭仕上げ。普通、サンドペーパーを使うとこ

「無育」の森をリスペクト! 鋭仕上げで吉野杉の魅力を引き出す。

ろを削り、仕上げると、「ペーパーだと散らかり部分ばかり削られて凹凸が残りますが、削は硬い部分も同じ加減で削れるので、滑らかな曲面に仕上がるのです」と森さん。500年の歴史を有する吉野林業

には、無育という言葉が伝わる。山守が我が子を撫でるように木を育てることを表した言葉だ。「伝統を知り、木をリスペクトする気持ちが増しました。杉の特徴に合わせた最高の家具をつくりたい」と作業に打ち込む。



①森さんがつくったアームチェア、②研もたれと座面に吉野杉、脚には国産榿を使用、③森さん(中央)と研修生、東京出身の白井さんとイギリス出身のフレッド・ドッドソンさん、④工房を仕上げている森さん、⑤削でつまんで削る豆蔵など多様な器、⑥完成した椅子が並ぶ。

森幸太郎さんにとって、ものづくりとは? 答え すべてにいい影響を及ぼすもの。使う人にとっても、自分たちにとっても、地域や自然にとっても、いい影響を及ぼすもの。

種和紙工房

掛け軸の表紙に用いる宇陀紙をつくる「種和紙工房」。6代目の種浩三さんは、「うちの宇陀紙の特徴は、石灰岩を砕いた白土を入れること。紙に重みを持たせ、調湿効果も向上します。表紙職人が使う紙であり、

掛け軸に用いる宇陀紙を漂きつつ、新たな和紙製品にもチャレンジ!

代々伝わる家業のような物にも使われるので、100年、200年と持つで、新しい和紙づくりに挑戦している。「父が考案してつくっている

です」と、立体漂きと呼ぶ特殊な製法の紙を見せてくれる種さん。たくさんの突起がちりばめられた和紙や、麻本のページを縦かきちぎって和紙に漂き込んだブックカバーも製作中。和紙製品の可能性を広げている。



①和紙の帽子、名刺、コースターも製作、②種(こうぞ)の根を蒸し、皮を剥いた白樺(しろぞ)に残る茶色い繊維をカミソリで取り除く種さん。紙が白く仕上がる、③立体漂きの突起のある和紙。海外からの注文で繁殖に、④表紙用の宇陀紙、⑤造りで育てている種、枝を刈り取った状態。

種浩三さんにとって、ものづくりとは? 答え 「紙漉きマシン」になること。常に同じ量の糸をすくって、同じ厚さの紙を漉く。手仕事の突進はマシンをすることです。

あかり工房 吉野



ライトセラピーをテーマに照明をつくる坂本尚世さん。夕陽や炭のような気分をリラックスさせるあかりを、吉野檜で表現する。「実家が吉野檜専門の製材所で、幼い頃から父に檜の良さを聞かされていて、たしか

心を癒すあかりづくり。檜や和紙で吉野の自然を表現。

スライスした檜をハサミで切り、アクリルに貼り付け、模様を生み出す。材料はほかに、吉野の手漉き和紙

も使う。滴彫に切った和紙を貼り重ね、水を循環させる人工林を表現するなど、吉野の自然からインスピレーションを得た作品が並ぶ。「あかりを通して、吉野の自然に思いを馳せていただけたら」と坂本さんは微笑む。

坂本尚世さんにとって、ものづくりとは? 答え 人との出会いをつないでくれるもの。さまざまな造形や職業の方、そしてお客さまとの出会いが、次の作品づくりに生かされます。



4月26日(火)午後6時、  
『オフィスキャンプ東吉野』の楽しみ方。



右上/「いい感じ」とパーベキューを振る舞う菅野さん。中上/2階は和室が3部屋、飲み盛りも開放的！中下/台所では鍋の準備に大忙し。左が比留間さん。左上/「極と極をつなぐ」というコンセプトの象徴が、価格350万の檜の天板のテーブルにパーバー・オズガビーがデザインした椅子を組み合わせたワークスペース。左下/入口前でパーベキュー！下/『オフィスキャンプ東吉野』を菅野さんと共同運営する坂本さん。井戸水でコーヒーを淹れてくれた。



右上/今夜は鍋パーティ！右下/水に浸した吉野杉に具材を敷せ、ホイルを敷せて蒸し焼き仕、産製のように旨く焼ける。「新しいパーベキュー」のスタイル。木の肌の方は常に考えています。左/坂本さんの知り合いの農家から仕入れた野菜をたっぷり！

その一連の流れを見せて、「遠くに離れた人どうしでも仕事はできます。東京でも、ニューヨークでも」というワークショップを行い、「そうなんです」と話す坂本さんに、福野さんが、「そんなクリエイティブな暮らしや働き方が東吉野でもできることを子どもたちの記憶に残せば、村から出て戻って来るはず」と声をかけた。ものづくりは、地域との関係をつくる作業でもある。人口流出に歯止めをかけるための拠点としても、「オフィスキャンプ東吉野」が活用されるのが期待されている。

記者が見た  
ソーシャル・デザインの視点

「もの」は人のためにつくる。だから、いいものをつくらうと思えば「人」を知ることが必要。それには関西の田舎、奥大和に来るのがいちばん！ 顔は薄味だけど、住む人の心は濃厚ですから。

POINT  
いい「もの」をつくるには、「人」を知ることが必要。



携帯電話が通りばなしのスーパー公務員・福野さん、調整役として活躍。



「オフィスキャンプ東吉野」の一枚板のテーブルを囲む奥大和のクリエイターたち。  
オクヤマトシカマ、ミンナナカヨシダス、盛り上げていく奥大和、喜びに集ってほしい、新しいつながりが広がっています、みんなが集まれば、何かが始まる予感が。

クリエイター、職人、県や村の職員。多彩でユニークな仲間が集まって、奥大和でのものづくりや暮らしづくりを楽しんでいます！



吉野町の「美吉野醸造」4代目の根本晃明さん。吉野杉の樽仕込みで「百年杉」を醸造。

この日は、「オフィスキャンプ東吉野」でパーティが開かれ、奥大和のクリエイターが集まった。台所で野菜を切っていたのは、東吉野に移住して1か月の陶芸家・比留間郁美さん。「先日、カメラマンの西岡潔さんの家に開軒裏ができたので、みんなでアマガを焼いて食べました。来られていたそば屋「よしの庵」のご夫妻から、「新しく開くカフェのコーヒーカップを焼いてもらえんか？」と依頼されて、今、カップを考案中です」とうれしそうに話す。比留間さんのように、移住したクリエイターと奥大和の企業や店舗経営者との交流が生まれ、仕事に発展するケースが増えている。パーベキュー番長となった具材を焼いていた菅野さんも、「東京向けに販売する木工品を『アップル・ジャック』さんに依頼したり、「市」さんのウエ

ブサイトをつくらう。喜んでもらえるのでやりがいがあります」と、村での仕事ぶりを話す。坂本さんは言う。「クリエイターが集まって、「それ、いやん！」と仕事が生まれる。ここは、ものづくりのきっかけをつくる場なのです。コンセプトは、極と極。都会と田舎、働くと遊ぶ、若者とお年寄りという対極が作用することで生まれる新しい価値を表現したいのです」。裏山には小学校がある。3年生の授業で、「子どもたちがパソコンに絵を描き、メールで僕のパソコンに送信し、ファイルを開いて作業する。



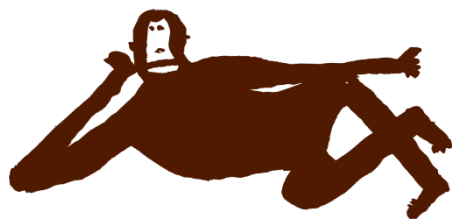
右/吉野町にあるゲストハウス・移住体験スペース「三奇楼」。左/「三奇楼」を運営する「上里まちづくりの会」メンバー。朝市などのイベントの企画も行っている。



# 山の名人たちと山菜ガールの、 『あきた森の宅配便』。



ゴミ、捨てんなよ!







今日、  
山に採りに行くのはこれ。  
みずの実です!

葉に数センチ間隔で実をつけるみず。実の大きさは1〜1.5センチほど、熟に食べられる山菜だ。

特集  
日本の森で、起きていること  
Creative Forest

あきた森の宅配便。

# 山の名人たちが、 あなたの代わりに 山菜採りに行きます!

秋田県・小坂町にある「あきた森の宅配便」は、  
食べたい山菜をインターネットで注文すれば、  
「山の名人」が採ってきてくれる代行サービス。  
今日はキサおばあちゃんが、注文のあったみずの実を  
森に感謝しながらいっぺん採ってきました!

photographs by Yusuke Abe text by Kenzaro Matsui

ホ——ッ!  
朝6時の霧がかった森に、キサおばあちゃんの甲高い声が響き渡る。上がったばかりの雨に濡れた足元、落ちていた枝を拾って杖にして、背丈ほどの草を掻き分け、森の奥へと歩いていく。ここは秋田県北部、小坂町にある森の中だ。

ホ——ッ!  
キサおばあちゃんが声を発するのはクマよけのためだ。「クマさん、出てこねえでな」と、森に向かって言葉をかける。「これも、クマよけ」と示すのは、腰に巻いた付けた藪取り編み。蚊も追っ払うが、煙の匂いを嫌がってクマが近寄らないようだ。「いつもは姉と歩くの。おやつ持って、大声でしゃべって。それもクマよけ。誰事も聞かぬから言いたいこと言ってサッパリするの」と笑う。

キサおばあちゃんが山に入るのはこの時季に小豆色の実をつけるみずという山菜の実を採るためだ。キサおばあちゃんはみずのことを「みんずん」と発音するが、秋田弁初心者だと「ニンジン」としか聞こえない。「ニンジンでね。みんずん」と賑やかに教えてもらいながら歩いていくうちに、みずが群生している杉林に出た。

「なっちゃん、いっぺんある」と、前を歩く栗山金津子さんを呼び止める。栗山さんはキサおばあちゃんの

ホ——ッ  
今から、  
山サ入るよ。

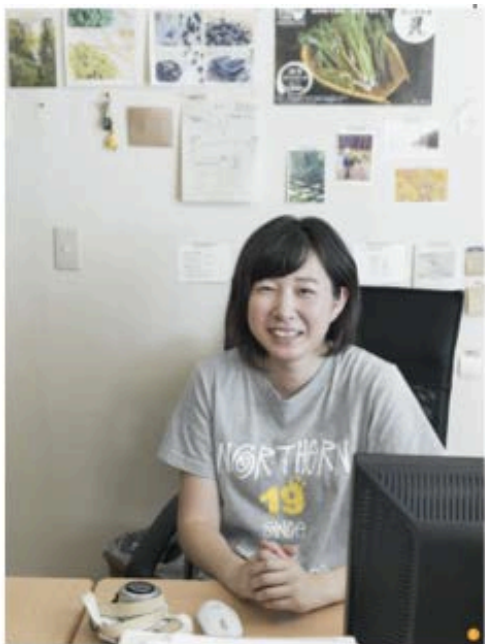


27歳になる孫で、インターネットで山菜を販売する「あきた森の宅配便」の代表だ。この日は注文が入ったみずの実を、山の名人、であるキサおばあちゃんと一緒に、注文主に代わって採りに来た。「そうだね、採ろうか」と栗山さんが答えると、キサおばあちゃんは腰を曲げ、手を伸ばし、茎に数センチ間隔で生っている実を茎ごと折って採り始めた。採った実は、お手製の山菜用カバンに詰めていく。隣のみずにも手を伸ばす。その隣のみずも採る。ただ、もう一つ隣のみずは、「まだ小せいな」と実を折らずに残した。「ガラッ」と採ってしまったら、来年また採れなくなるから」と。山菜採りに、山を守る暗黙のルールがあるのだ。

山菜は、遠方から来た人が町や集落の共有地に入って、根こそぎ採って行ってしまうこともある。先人から受け継がれてきた大切な山の恵みを、将来の世代まで授かれるよう、適切な量を毎年大切に採っている地元の名人は、そんな様子を見ると悲しい気持ちになるという。

数ある山菜の中でも採取が最も難しく、かつ、人気があるのは幻の山菜といわれるネマガリダケだ。立派なネマガリダケを採るのは山の名人でも簡単ではない。「里にも生えてつから、ロープサつないで登って採った、若えときな」とキサおばあ





●「あきた森の宅配便」代表取締役の栗山さん。東京農業大学卒業後、食品会社を経て代取に。仕事のかたわら、地域を盛り上げる活動にも取り組む。●「あきた森の宅配便」の事務所は、自然に囲まれた奥田原・小前町にある。●みず、山ウド、アケボノ、アイコなど、山菜を乾燥させたハーブも試作中。●山菜を受け取ったお客さんからお礼の手紙やメールがたくさん届く。●生産園に取り付けられた看板。●あきた森の宅配便のホームページ <http://akiya-mori.com>

「山菜は山からのいただきもの」と、山の恵みに感謝しながら自然とともに生きる。その生き方を受け継ぐことが私の森づくりです。

**Q**  
「あきた森の宅配便」  
栗山裕子さんにとって、森づくりって？

「山つこ、ありがたす。」  
キサおばあちゃん七福という山を一つ越えた集落で生まれ育った。やんは、若い頃は危険な目を冒してまでもネマガリダケを採ったことを話す。「子どもたちを食べさせねばならぬえから」とし。

子どもの頃から山が好きで、おばあちゃんと一緒に山菜を探りに行ったそう。21歳で嫁入りし、2人の女の子を授かった。けれども、若くして夫を亡くし、以来、女手一人で娘たちを育てた。田畑を耕し、山菜採りに補助を出した。「採った山菜を山の入り口で買う人（仲買業者）が

て、現金でもらえつから一日に何回も山へ入った」と言うように、山菜採りは大切な収入源だった。



小前町にある名勝の一つ、七滝。キサおばあちゃんの寓居はこのすぐ側にある。

冬は静岡県の建設現場へ出稼ぎに出た。作業員のご飯をつくり、現場でも働いた。正月でさえ小板に帰れなかったさうだ。「田んぼも畑もいっぺんあつたから、なんもみんなに手伝ってもらって。みんなに苦労かけたの」と言うキサおばあちゃんこそ、いちばん苦労したはずだ。「今は苦勞でもなんでもねえ、なつ

ちゃんに「頼む」って言われたら、喜んで山菜を採る。採ったらなつちゃんサあげるども、「代金をもらえね、もらえね」と言うのにな、代金をくれるの。すまぬのな。そして孫やに、お小遣いやらの。孫に聞かれ、なつちゃんといっしょに「ばんせだ」そう言うって、キサおばあちゃん



●「なつちゃん」と栗山裕子さん(右)と、「キサおばあちゃん」と山口キサさん(左)、農薬用の袋でつくった軽くて丈夫な手製のカバンは、みずの臭いでいっぱい！ ●山へ行けば、森は臭いの忘れて山菜採ると、穴もずんずん掘っていく。●「おばあちゃん、採れた?」「なんぼか採れた」と会話を交わしながらさらに森の奥へ。●奥に開けたみずの臭。●今日の収穫は5袋分。







●採れたての山菜が並び、●●●、斜面に生えた山菜を採るキサおばあちゃん、●コゴレ、●フキノトウ、●ナマガリタケ、●宮光祥「篤気な母さんの店」も運営しながら、山の名人として山菜を採る島山り子さん(右)と古川カツ子さん(左)、「マイ林」で知恵を見ながら採っています。●「今度、東京で販売するときは「森の宅配便」のパンフレットを配ってあげるよ」と栗山さん(左)と栗山さん(右)の会話。●●小坂町の道の駅にある「篤気な母さんの店」、公的な運営ではなく、生産者自らが経営する。

10月、山に霧が降りれば、今年の山菜採りはおしまいだ。みずの実ほ地面に落ち、また来年までじ芽吹く。ホーッ！

そして春が来れば、キサおばあちゃんのカマよけの音が響ける森に響くのだ。

生きる糧を与えてくれる山を見渡し、濡れた葉っぱに水濡れ日が反射してキラキラとまぶしい。みずの実でいっぱいになったカバンを下ろすと、頬かむりの布で顔の汗をぬぐった。「山っこ、ありがてっす」。

車に戻り、合羽を脱ぎ、助手席に乗り込んだ。車は途中、キサおばあ

ちゃんの実家がある七滝の集落を通った。「あれが七滝、龍神様。何でもかなくてける」と山尻を流れ落ちる七滝を車の中から指さすと、パンと手を打ち、頭を下げた。そして、「今日は雨、降らねて良かった。神様のおかげ」と、この日の取材中に雨が降らなかったことを、我々に

代わってお礼を言ってくれた。生きる方を受け継ぐ。

「山菜のことは全部、キサおばあちゃんから教わりました」と言う栗山さん。子どもも、キサおばあちゃんと同様に山へ入り、食べられる山菜を採り方を教わった。大学

を卒業し、青森県の食品会社に3年間勤めた後、「ずっと農業や自然と関わる仕事に就きたいと思っていました」と、故郷の小坂町に2014年にUターン。もともと父親が副業として営んでいた「あきた森の宅配便」を引き継いだ。

忙しいのは、山菜の手際である5月と6月。1日に印刷を発送する日もある。固定ファンも増え、売り上げは年々上がっている。それでも収入は、「勤めていた頃の半分ほど」と栗山さん。そこで、塩漬や缶詰にして保存してある山菜を使った山菜鍋や山菜そばの販売を始め、さらに、山菜を乾燥させた「森のハーブ」を試作するなど一年を通して販売できる商品の開発に努めている。

そんな栗山さんの夢は、白給自足の暮らしを営むこと。「あきた森の宅配便」は、その最初の一步だという。「キサおばあちゃんや山の名人は、「山菜は山からのいただきもの」と山の恵みに感謝しながら、自然とともに生きてこられた。その生き方を受け継ぎたいのです」。



●山から採ってきたみずの実を洗済する作業。左から栗山さん、妹の栗山はづきさん、キサおばあちゃん、後援の山比子マクドウェルさん、山形大学農学部在学中のはづきさんは、「山菜の栄養価と天然と栽培ものの違いを研究するのもおもしろそう」と山菜に関心を寄せている。ニューワークから研修していた山比子さんは、「森のように、山菜も世界で食べられるようになれば」と笑顔で話す。●みずの選別と梱包の作業。葉を取り、茎と実だけにする。ぶさや虫がついている実も。●1本の茎には実が数個、この状態が採り始める。●1箱は150グラム、それを2袋詰にする。●袋詰にすると秋田の産物を数え、みずの実のレシピを書いた紙を添えてパッケージ、深った日の午後にはクール便である。●「しょうゆ一食漬け」や「豚肉の炒め物」など、みずの実のレシピも同封。



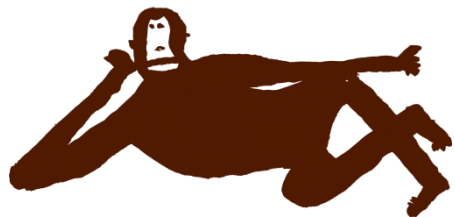
●キサおばあちゃんが台所に立って、おすめのみずの実の一品料理をつくってくれた。まず、蒸籠したお湯にみずの実を蒸ごと入れ、まっとうと煮ゆで、小豆色のみずの実が緑色になる。●茹でたみずの実をザルに移し、醤油を適量戻し入れ、しばらく置いて味を染みこませる。生葉をすってかける。●茹でれば、出来上がり！ シャキシャキとした歯ごたえで、実を嚼むととろろが口に広がる。



『裏山しいちゃん』と、  
愉快的なプロジェクトたち。



ゴミ、捨てんなよ!







赤い丸屋根が印象的なJR飯田駅。飯田の名産・リンゴがモチーフに、ここまで来れば「裏山しいちゃん」はすぐそこ！

「裏山しいちゃん」に来る、  
内発性を持った若者たち。

長野県飯田市のJR飯田駅から歩いて5分ほどの元町交差点の角に、ちよっと変わったスペースがある。2階建ての古い建物をリノベーションし、2017年4月にオープンした「裏山しいちゃん」だ。運営するデザイン会社「週休いつか」の代表取締役社長・新海健太郎さんが「どうぞ」と引き戸を開けて、中へ案内してくれる。「週休いつか」のオフィスも1階に入っているそうだが、まず目に飛び込んできたのは棚に並んだたくさんのお菓子。「くまのこしよてん」という会員制の貸本屋を営んでいます。駄菓子も高校生が販売しています」とのこと。2階へ上がると、カラフルに装飾されたスペースが。「ここはレンタルス

ペースで、ワーキングとしても使えます。数人の女性が作業していたので声をかけると、「大丈夫ですよ」と取材に応じてくれた。

水引作家の白子加菜さんは、水引の雑貨やアクセサリーなどをポップな感覚でつくっている。「たまたまカフェで新海さんと出会い、飯田市出身のヘアメイクアップ・アーティストの小椋ケンイチさんと「水引御殿」という飯田の水引を盛り上げるプロジェクトを「裏山しいちゃん」でされていると知り、来るようになりました。水引は飯田の伝統工芸ですが、日常的に水引を楽しんでほしいと思って活動しています」と話す。Webデザイナーの奥山理香さんは、「裏山しいちゃん」をワーキングスペースとして使っている。「週休いつか」からデザインの仕事を受託しながら、「最近自分でもや

project  
**108**  
裏山しいちゃん  
長野県

代表の新海健太郎さんに聞きました！  
これからプロジェクトを始めるといって「見切り発車」でいいので始めましょう。発車後に発見を積んで、修正を要すればいいプロジェクトになっています。  
DATA 活動団体名/週休いつか スタート年/2017年 スタッフ数/11名 www.itsuka.co.jp

「週休いつか」の  
新海健太郎さんのアプローチ。  
「裏山しいちゃん」と、  
愉快的なプロジェクトたち。

「裏山しいちゃん」に「山羊印カフェ」「爆発芸術舎」に「桜咲道」。なんだか変わったネーミングの「場」が次々と広がっている長野県飯田市。愉快的なプロジェクトたちが、「何もない」と揶揄される地域を盛り上げています！  
photographs by Hiroshi Takeoka text by Kenjiro Matsui

特集  
地域と関わる  
ローカルプロジェクト  
PROJECT LOCAL!

地域の高校生、水引作家、ノマドワーカー、劇団員。長野県飯田市にある「裏山しいちゃん」には、ユニークな人が大勢訪れる！

長野県飯田市。  
集まった人が次々と輝く、  
ローカルプロジェクトの  
玉手箱です！

アインの見方  
① プロジェクトへの参加  
② プロジェクトのメンバー募集  
③ プロジェクトへの募集  
④ プロジェクトの運営





思いもよらない  
アイデアと、  
仲間が生まれる空間。

レンタルスペースにたくさんの人が集まった。地域の人の世代を超えた交流と新しい何かが生まれる場に。



集う人の  
内発性が、  
連鎖します！

① 寿平神社の敷地内に立つ「裏山しいちゃん」。② 資本屋「くまのこしょてん」。会員になれば1冊80円で借りられる。③ 子どもたちには駄菓子屋が人気！ ④ ママさんの赤ちゃんヨガやコスプレイヤーの撮影会など多彩な使い方ができるレンタルスペース。500円で貸し切りもOK。

ADDRESS  
裏山しいちゃん  
長野県飯田市元町5455-2 tel.0265-49-8948  
www.facebook.com/41chxyz



① 低い廊下を過って2階の階段へ。ガラスケースの古道具も販売中。② 小椋ケイチさんがプロデュースした水引の装飾。③ 和紙の志にシルクの糸を巻いた水引。これは基本の結び。④ 水引作品を制作中の白子さん。今後は「裏山しいちゃん」でも販売したいと意気込む。

問われる人からひと言  
美奈さんに誘われて通うようになりまして。僕もイラストレーターになるのが夢で、「週休いつか」の社員の方からパソコンの使い方、デザインや広告の仕事についても教えています。



問われる人からひと言  
新潟さんから地理学を教わったり、「平成の成吉思汗」という人材教育プロジェクトのインターネット会議を行ったり、いつか、大人も交えた意見交換会や講演会も聞いてみたいです。



問われる人からひと言  
駄菓子のネットでの仕入れ、販売、売り上げの計算を担当しています。小学生の穴場的な店として人気です。思った以上に売れてきて（笑）、地域のお祭りの日には1日で1万円超えます！



問われる人からひと言  
「PUSH!!」という高校生向け情報誌の記者をしています。ただ、その仕事はあまりここではなく、学校の勉強をしたり、職をとったり、部活がない日はとりあえず来んでいます。



地域の高校生も足繁く通います！

僕が実感していますから」と笑う。今後は、「裏山しいちゃん」的な場を地域の企業などにも設けたいと構想を練る新海さん。とくに高校生と地元企業が関わる場をつくり、

飯田の魅力を実感して感じ取ってほしい、と、「進学で約7割が地域外へ出て、戻ってくるのは3割程度。その数値を上げるのも地域の課題です」と飯田の未来を思い描く。

そうに読み聞かせるといった演劇と本を絡めたイベントを開催している。「東京からUターンしたとき、飯田にこんなところがあったのかと驚きました。つい足を運びたくなる場所です」と笑顔。「いつか上演したいです」と戯曲を書く市瀬佳子さんも気に入っている様子だ。駅が近いので、通りかかった地域の人が「こんなには」と気軽に立ち寄る。夕方には4人の高校生が引き戸を開けて入ってきた。それ

「卒業後は都会の学校へ進学し、イラストレーターになりたいです。でも、いずれは飯田へ戻って返したいです」と地域への思いを語った。もともと起業支援の場として立ち上げた「裏山しいちゃん」や「りたいいこと」を実現する場になれば、と新海さんは言う。そのために大切なことは「心からやりたい」という「内発性」とも。「内発的な視点で地域資源を掘り起こせば、何もないと揶揄される飯田の暮らしも楽しくなります。」



新海さんが取組むを始める「まじまじめ」がつくる「月刊まじめ」。飯田市でいちばんの発行部数を誇る情報誌。



高校生向け情報誌「PUSH!!」の創刊準備中。高校生記者は、作業場として「裏山しいちゃん」が使える特典も。

りたいこと、アフィリエイトですが、そちらに重点を置いて取り組んでいきます」と話す。「ただ、ノートPCで自分の作業をしながら、子どもたちも来ます。その店番代も「これくらいかな」と請求書に加えて出しています」と笑顔で答えてくれた。レンタルスペースを劇団の稽古場として使っている清水ゆかりさんは、稽古とは別に、「肉と本しみず」という料理本のレシピを、さもおいし

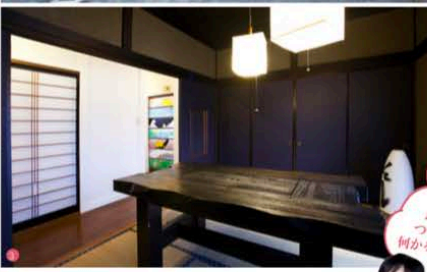
それぞれ違う高校に通い、「裏山しいちゃん」で知り合った。駄菓子を販売する飯田OIDE長姫高校2年の中嶋美奈さんは、「商業科の地域人教育というカリキュラムの地域企業インターンシップで「週休いつか」にお世話になり、そのときに「裏山しいちゃん」を知り、通っています」と話す。将来の夢はイラストレーター。新海さんに誘われ、学校帰りや休日「週休いつか」の社員にパソコンの使い方を教わっている。



関わる人からひと言  
諏訪市のゲストハウスに泊まり、旅行者が和やかにディスカッションしていたのを目にし、飯田にもつくりたくになりました。「桜咲造」の近所の方が祭りの神輿を担がせてくれたのもいい思い出です。



「桜咲造」のシェアスペース。以前は電器屋さんだった。●個室もある。●宿泊も可能。●エース・リフォーム代表取締役の太谷公嗣さん。「地域貢献する大人になってほしい」と高校生にエールを送る。●イベントの準備に来た鎌倉さんの後輩たち。●受験勉強に励む飯田高校の3年生。



CHECK POINT!  
地域とつながり、何かを生む場!

ADDRESS  
**桜咲造**  
長野県飯田市上郷黒田379-4 tel.070-3163-5125  
<https://m.facebook.com/sakurazukou>

16年に開設したシェアスペース「桜咲造」の生みの親は、飯田OIDE長姫高校2年生だった鎌倉明也さん。鎌倉さんは、「飯田にゲストハウスをつくりたい」と、新海さんに飯田市ビジネスプランコンペティションへの応募のためのサポートを願った。放課後に「週休1つ」を訪問、新海さんの指導を受けながら事業計画書づくりに没頭。オフィスで徹夜し、そのまま学校へ行くこともあった。数か月間かけて事業計画書をまとめ、コンペに挑んだものの、結果は奨励賞に終わった。

ただ、そのプランにリフォーム会社「エース・リフォーム」が賛同。改装工事を行い、「桜咲造」が誕生した。鎌倉さんは地域の大人を講師に招き、仕事や人生を語り合う「さくさく講話」を開くなど、高校生が地域と関わる場づくりに努めた。社会人になった鎌倉さんはこう振り返る。「実は「桜咲造」が高校生の遊び場になるのではと心配する住民の方がおられました。でも、新海さんと一緒に意義を熱心に説明するとご理解いただけ、さらにその方が「さくさく講話」にも登壇してくださったことが何よりもうれしかったです。

今、「桜咲造」は鎌倉さんの後輩が運営する。「それが大きな成果」と新海さんは、イベントの準備に来た後輩を頼もしそうに眺めていた。



関わる人からひと言  
学校がインプットする場になっているので、子どもの絵画教室では思う存分アウトプットしよう! 絵や造形を通して、目標へ向けたプロセスの大切さや自分で何かをつくる力を養ってほしいです。



ADDRESS  
**爆発芸術舎**  
長野県飯田市今宮町1-33 tel.0265-49-8948 <https://m.facebook.com/bakuei>



CHECK POINT!  
美術教室が少ない飯田の貴重な場です!



「爆発芸術舎」の玄関。子どもが18人、受験生が2人、大人が5人通っている。●通称、「ばくげい」。シンボルは夢を食うバク。●民家リノベーションした教室。いい雰囲気。●生徒が紙でつくったスタンドグラスを見せてくれる小川先生(左)と新海さん。●「塔(タワー)」というテーマで生徒がつくった人型の塔。粘土の色使いや装飾も絶妙の作品!

力し合い、「山羊印カフェ」を始めました。6年が経つ今も、感度の高いお客さんで賑わっている。「週休1つ」の女性社員の「子どもに絵を教えたい」という発案から14年に始まったのが「爆発芸術舎」という教室。地域の大人や子ども、芸大・美大受験生に絵画を教え、書道と英語教室も備える。絵画教室の講師を務める美術作家の小川泰生さんは、「子どもの場合、生徒から上がる「これを描きたい、つくりたい」という声を大事にしています」と話す。外国人向けの「English」も併設しているので国際交流も育める。

『桜咲造』に「爆発芸術舎」。自ら関わる人が増え、まちにインパクトを広げます。

CHECK POINT!  
僕が地域と関わり始めた、きっかけの場!

関わる人からひと言  
「山羊印カフェ」で働いています。シェアカフェなのでスタッフもお客さんも個性的な方が多く、そんな方々とながれることが楽しいです。私たちのアイデアが店で実現できるのも刺激になります!

加藤綾乃さん 小川泰生さん 新海さん

ADDRESS  
**山羊印カフェ**  
長野県飯田市高羽町1-8-1 カフェ狐内 tel.0265-48-5040 <http://yagin.net>



●月曜はカレーが人気の「山羊印カフェ」。火・水曜は自家焙煎コーヒーの「音階社」。木～日曜は「カフェ狐」、物販として「あいらる菓子工房」とアフリカ雑貨の「Bigga」が入っている。●山羊印スパイスを使ったネパールカレー。●まろやかな味のチャイ。

「裏山いちちゃん」をつくる前から、新海さんはさまざまなアプローチで地域を盛り上げてきた。12年にオープンした「山羊印カフェ」は、「以前は天然酵母のパン屋さんで、会社勤めをしていた頃、よくランチを食べに来ていました。……けど、ある日突然、閉店しちゃった」と新海さん。お気に入りの場所をなんとか残したいと考え、仲間とカフェを開くことに。「シェアカフェ」という言葉も知らず、ただ残したい一心で仲間と協

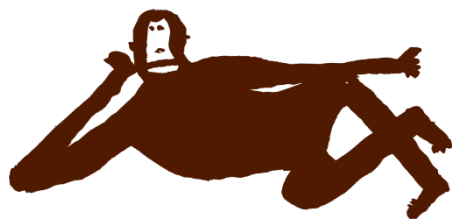
「後輩に受け継がれたことが、「桜咲造」の大きな成果!」



# 社会を動かすペンターン女子!



ゴミ、捨てんなよ!





# 宮城県・唐桑半島が元気です。 社会を動かす ペンターン女子!

あたらしい価値観を持って地方へ移住し、  
そこで始まった人生を楽しんでいる女子チームを紹介。  
でも、ユニットチームなのではなくて、  
まだまだ移住者を募集しているそうですよ!

photographs by Masaya Tanaka text by Yoshino Kokubo



宮城県の最北東端に位置する唐桑半島。リアス式海岸特有の美しい景色をもつ。

陸地からつららのように細く延びた、唐桑半島と呼ばれる宮城県気仙沼市唐桑町。市内で最も太平洋側に突き出ているため、3・11で甚大な被害を受けたところでもある。

しかし、この小さな半島で。あたらしい移住のカタチが始まっている。3・11からの約5年で、唐桑半島へ移住した人は15人ほどになった。なかでも、若者によるまちづくりプロジェクト「からくわ丸」に携わっている移住者が9人。彼らは、半島に移住することを「ペンターン」と命名

した。「ペン」は、半島を意味する「Peninsula」から。9人のうち、5人が女子で「ペンターン女子」と呼ばれるようになった。

そのリーダー、根岸えまさんは、取材にもんべ姿で登場し、「地元のおばあちゃんが作ってくれたんです。一番のお気に入りです」と話し、「このもんべに、ニット帽とデニムシャツ、ムートンブーツを合わせているところがポイントだよ」と、他のメンバーと笑った。とにかく明るく、笑いの絶えない5人だ。

根岸さんが初めて唐桑半島を訪れたのは、2011年10月、大学2年生のときのこと。「唐桑町内のある地区の運動会にお手伝いとして参加するボランティアでした。私は東京生まれ、東京育ちで、これまで地方に行ったことがなかったんです。集まった地元約80人が大家族のようでした。人と人の距離が近いので驚きました」。

その冬、根岸さんに衝撃的な出会いがあった。「地元の漁師さんから、震災の話が直接聞くことができたんです。津波が来る前に船を沖へ出す「沖出し」をしてその方は助かったのですが、行方不明になってしまった漁師さんもいたことや、荒れ果てた町で人から裏切られるようなことがあり絶望したことを、涙ながらに語ってくださいました。それでもなぜ漁師を続けているのかを聞くと、「ずっと漁師として生きてきたから、自分が漁師として先頭に立ってこの地域をどうにかしたい」と、圧倒的な使命感を持っていたんです。どん底から這い上がる人の強さを感じましたし、命を引き換えに仕事をしている人のすごさに価値観が一気に変わったんです。こういう方をもっと

ペンターンのペンは、ペニンシュラから。  
つまり、「半島移住」のことです!

PENINSULA

増やしたい、この町のために頑張る人ももっと増えたら」と。根岸さんはこれを機に、2012年に大学を休学し、1年唐桑半島に滞在。「からくわ丸」などの活動に没頭した。その後、復学するときには「東京に戻るのほらかったけれど、もっと勉強したいという気持ちで芽生えていた」という根岸さん。生産者の顔を知ったことで一次産業に興味を持ち、あるNPOでインターンを経験した。その母体企業から就職の誘いも受けたが、唐桑半島へ戻りたい気持ちが強く、2015年3月に大学を卒業し、ついに4月に移住した。

佐々木美穂さんは、いち早く唐桑半島へ入ったメンバー。当時は兵庫に住む大学1年生。ハンセン病に関する海外でのボランティア活動をしていて、唐桑半島に著名なハンセン病の元・患者がいたことでこの町を知っていたため、2011年3月にボランティアとして入った。通ううち、居心地のよさに移住を意識するようになり、2015年3月に大学を卒業し、4月に移住した。「実はマスコミ志望で内定もいただいたんですが、縁もゆかりもない東京での生活を考えたら、同じ志をもつ仲間



唐桑半島の先端にある岬・製糖にて。冬の寒さのなかでも、とっても元気が「ペンターン」女子。







唐桑半島から、湾にある大島を望む5人。海には、牡蠣やホタテを養殖している筏が並んでいる。



「半島は三方を海に囲まれていて閉鎖的な部分はあるんですが、入ってしまえば閉け込みやすいですよ」と、根岸さん。

**知り合いの漁師さんと立ち話中。**



右/杜嶋小屋「唐桑養殖」のデッキにて、歌ったりおしゃべりしたり、元気な5人！左/根岸さんを見つけた、車を止めた漁師さん。根岸さんは町の人気者！



訪れたところ、地元の人から「この間も来ていた祐生でしょ」と言われ、「2回目なのに覚えてくれてたんだ！」と感動したという。

「名前と顔を覚えてもらえてってこんなにうれしいんだ、忘れられたくないし、また行こう！」と奈良から通い始めましたね。来る度に「お

3人がシェアして住んでいる唐桑御殿の玄関先。「清水屋」とは、ここにもともと住んでいた漁師の屋号。



031 SOTOKOTO February 2016

移住の決意は、5人それぞれ。震災のボランティアや漁師との出会いを経て、この土地に縁を感じていきました。

を卒業した直後の2013年4月に移住した。「高校教諭を目指していましたが、社会経験がないと高校生に何も伝えられないと思っていたので、大学を卒業してすぐ教員になることが私にはしっくりこなかったんです。たまたま唐桑というチャンスがあって、迷うことなく飛び込みました。」

奈良県出身の内田祐生さんも、ボランティアとして2011年9月に唐桑半島を初めて訪れた。10月にも

がいて唐桑のほうがいいと思ってここに来ました。」

岡山県出身の岡崎真弓さんは、2011年10月にボランティアとして初めて唐桑半島を訪れた。翌年、根岸さんの誘いで再び訪れ、地元の人とヨソモノと一緒に町を歩いて地域の魅力を発信する「まちあるき」に参加し、「ないものねだりじゃなく、あるものを使って町を盛り上げる精神に惹かれて」移住を決意。目指していた教職にすぐには就かず、大学

3人は、唐桑の漁師が住んでいた唐桑御殿と呼ばれる古民家でシェアハウス中。表札は元・漁師さんがつくってくれたそう。



February 2016 SOTOKOTO 030



息がぴったり合ったペンターン女子。地域を明るくします！

「かえり」と言ってもらえました。唐桑半島で仕事が見つかったことで、大学を卒業してすぐ、2014年5月に移住した。

仙台にある大学に通っていた小町香織さんの初唐桑は、2014年11月、ボランティアではなく、「気仙沼におもしろい漁師さんがいる」と聞いて訪れたのだとか。「実際に会ってみたら、インタレスティングというより、フアニーのほうのおもしろさで(笑)。地元のおばちゃんたちも話していておもしろく、唐桑っていいなと思ったんです。その日に根岸や岡崎たちと出会い、彼女らが自分の意志で移住を決めて活動していることが衝撃的で、新しい価値観を感じました。自分の好きなように生きていいんだ！この人たちが活動したら、私も自分の意志で活動できるようになるかもしれない」と、運良く仕事が見つかり、「移住と抵抗感がありませんでした」。

半島移住の他に共通項がもう一つある。社会人1年目を、唐桑半島で経験しているのだ。既成概念にとらわれず、自分の声に耳をすませて人生

を切り開く姿はたのしい。どのメンバーも、ゆかりの地に移住したという意味で「Roots(ルーツ)」の「Rターン」でもある。新しい縁を感じ、その直感に従って素直に動く彼女たちの行動力は、きっと地域の財産なのだろう。今、若きパワーは動脈のようにこの半島を走っている。

**記者の目**

唐桑は女性が充ちた半島だ。かわいらしさと明るさ、そして若さを持つ「ペンターン女子」ももちろん。彼女たちの移住ストーリーを「若いからできるんだよ」と思うのではなく、素直に受け取ってみたいと思った。さあ、何を生きているのか。

**結論**  
「移住したい」より「どう生きるか」。

**01 宮城県 気仙沼市唐桑町**

おすすめ地元スポットは？

A 海を眺められる、社福小屋「唐桑養老」の上の道。震災から養老院が増えているのもうれしい。

答えてくれたのは  
ペンターン女子 榎岸えまさん

DATA 気仙沼市/42.31°N 人口/6935人(唐桑町、2015年11月) 市人外/自治体の職員、土木作業員など 経済・文化観光/起業支援や青年就業創出支援など www.city.kesennuma.jp (気仙沼市)

10.9°C 24.3m



**「ペンターン」募集中です!**

榎岸えまさん

東京都出身。「ペンターン女子」リーダー。「からくわ丸」の創立メンバーでもある。現在は一般社団法人「まるオフィス」で働き、まちづくりや漁師のブランディングプロジェクトに携わる。

**ヨソモノ視点で新鮮な価値観を。**

岡崎真弓さん

岡山県出身。「ペンターン女子」の最年長者で、優しいお姉さんのような存在。唐桑半島へ移住後、地域支援員を2年経験。教育に興味を持ち、2015年4月から唐桑町内の小学校の支援員に。

唐桑の魅力は？  
ペンターン女子のキャラクターをご紹介します!



気仙沼、そして唐桑に遊びに来てね!

**フォトドキュメント**  
唐桑ごっこおフェアのにぎやかな一日!



売れたての魚介類を食べるのは、地元の人々にとって日常のこと。フェアではメカシなどが売られていた。



さんま味噌も美味でおすすめ!



「移住しない?」の誘いを受けて。

**子どもとも仲良しです!**

内田祐生さん

奈良県出身。「ペンターン女子」のムードメーカー。子どもを月に一度一泊二日キャンプに連れて行くボランティア活動などで唐桑半島に渡った後、移住。現在は市の職員として働いている。

**移住者仲間を増やしたい!**

佐々木美穂さん

兵庫県出身。間伐や木質バイオマスを扱う企業に所属する。林業女子でもある。地方の仕事の良さを「自分の仕事はどう。誰につながっていくか、その先の顔が見える仕組みがある」と話す。

**「移住しない?」の誘いを受けて。**

小町香織さん

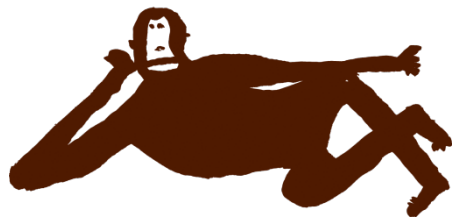
富山県出身。「ペンターン女子」で一番若いメンバー。岡崎さんが務めた地域支援員の後任として着任。「[からくわ丸]のように地元と移住者をつなぐ場があると地域に入りやすい」と話す。



「パーリー建築」で、  
毎日がパーティ！



ゴミ、捨てんなよ！





新潟県十日町市の津池という限界集落。ここに住む建築集団が、地域をちょっとおもしろくしている。その名も「パーリー建築」。

立ち上げたのは宮原翔太郎さん。都内の大学を卒業後、2年間専門学校で建築やスペースデザインを勉強し、縁あって広島・尾道のゲストハウス「ヤドカリ」のリーダー・ショーンに住み込みで関わった。この体験が、彼の人生の転機に。「尾道ではメインスタッフは僕を含め3人だけで、ちょっと建築を学んだだけの僕に自由にやらせてくれたんですよね。他のスタッフは入れ替わり。いろいろな人を巻き込みながら場ができていって、こういう場所のつくり方があるんだ」と、人生観を変えられました。

学校で学んだ建築より本能的だと感じたことも刺激になったという。「自分の手を使って自分の住居を整える行為は、人間以外の生きものが自然にやっていることですね。でも、人間はそれから遠のいてしまっている。セルフビルドこそ建築だと思っただけです」。

2014年秋、尾道から帰京した翔太郎さんは、波谷のある空き家を改装する活動始める。自ら住み込んで、友達や興味をもってくれた人々を巻き込みながら、自分たちの手で空間づくりを進めていった。

とにかく、「パーリー」を続けながら、使われなくなった建物を改装する。そんなユニークなメンバーって？

この3人がパーリー建築  
農精部隊のメンバーです！

白鳥家シェアハウス「ギルドハウス十日町」と住人のみなさん。「いつでも来てほしい」と翔太郎さん。

『ギルドハウス十日町』を訪ねてみました。

# 「パーリー建築」で、毎日がパーティ!

「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」で賑わう新潟県十日町市で、芸術祭とは別の盛り上がりを見せているシェアハウスを発見。その中心にある建築集団がいました。

photographs by Hiroshi Takahata Text by Yoshino Sakuno

この3人がパーリー建築  
建築部隊の翔太郎です!

この3人がパーリー建築  
狩猟採集部隊の勇太郎です!

住むの場所  
わたしの居場所  
my place to live





女性メンバーの意見は実用的で勉強になります。



上/調子柄を良く頂く制作中の用太朗さん。中/窓の下に、山で買ったというアクリルを張り、より素敵になったキッチン。窓から見える奥守山々の景が心地いい。下右/タイル張りの作業中の様子。下左/料理の現場はたいへい真知子さんなので勇助「マタコカフェ」。

「パーリー」建築の発想は、楽しくて、やわらかで、自由自在。共感した仲間たちを巻き込みます。



勇太郎さんが描いた、黒板(右ページ参照)や家具などの設計図。実用的でありながら、ユーモラスな要素も、抜かれたもの多くがすでに製作されている。

かつて、連絡したら本当に来てくれた」と話す。西村さんが目指しているのは、暮らしの空間をセミパブリックなスペース

ースとして地域に開放する「住み聞き」。その考え方に共感した山形真知子さん、大塚真さん、山際一輝さんも集まり、6人で暮らしている。9月からは須田恵さんとあかりちゃん親子が入居し、8人になる予定だ。「パーリー建築」は土砂崩れで半壊状態だったキッチンの改修から始め、今もなおこの家を手入れ続けている。それだけではなく、「地域の方々からいろいろなお仕事依頼をいただいて、そのお手伝いや協力もしています」と勇太郎さん。その依頼量は予想以上だったようで、好きな時間をゆつくり読むような時間も

ないほどだとか。もう一つ、地方において予想以上の「量」を誇るものがあつた。それは、廃材などの「余りもの」。「都会では見たこともないような量の廃材がいたるところにあつて、許可をもらっていただいたり、地域のの人たちから不用品家具などをもらったりしています。きれいにすれば使えるし、工夫次第でお金をかけずに暮らせる」と、翔太郎さん。西村さんも「畳、流し台、ストーブ、食器棚など、ここにある9割方はもらいものですよ」と話す。ここで暮らしを、翔太郎さんは「ナチュラルな考え方の人と出会う機会が多く健康になった」、勇太郎さんは「圧倒的な毎日。海外旅行で

もしているかのように楽しい」と話す。それぞれの人生がここで交わり、快適な「居場所」を得ているよう。翔太郎さんに「居場所」について尋ねると、「どこに居ても正直かなり居心地がいいです。未完成の家に住み、居場所がグルグルと変わっていくのが僕らなりの居場所のつくり方」との答え。実は、翔太郎さんと勇太郎さんは9月末に次の拠点へと移動する予定だという。なぜなら「パーリー建築」をしながら全国各地を渡り歩くのが彼らのスタイルだから。「僕は行く先を好きになると、もちろん毎度寂しいですけど」。翔太郎さんが、大塚さんとともに

こうして生まれたのが「パーリー建築」。「依頼者や地域の住民の人たちを巻き込んで、楽しくパーティをしながら建築をする活動なんです。暮らしの空間づくりを、エンターテインメントやイベントにしてしまうこ

とがポイント」。また、RPGで戦闘や冒険をする仲間チームをパーティと言ったことから「遊ぼう立場の人たちが組んだら強い。そういうイメージでもあります」と話す。その渋谷の空き家で、かつての翔

太郎さんのように、「衝撃」を受けた人が、河合勇太郎さんだ。「おもしろい奴がいると友達から聞いて、渋谷の家で出会ったのが翔太郎でした。同じ年で誕生日も1日違い。意気投合しました。現場に呼び込むという

西村さんは「出会った時、僕は旅をしていて、いすれコミュニケーションやシェアハウスを運営したいと考えていたので、そのときはよかつたら来て」と話していたんです。その後、たまたま十日町でいい古民家が見つ



あかりちゃんもお手伝い!

上/キッチンはウッドデッキ前に窓とカウンターがある。下には、穴があつたことを生かして小窓を制作! 下/地元の子手農家グループからの依頼でウッドデッキ製作を手伝った、近所の「田んぼの教室」。勇太郎さんが設計・制作した黒板も置いている。「パーリー建築」の情報や問い合わせはFacebookページへ。



黒板は「田」の字が骨組みに!

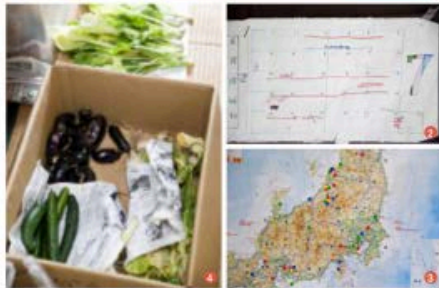
人とのつながり方がおもしろいと思ったし、何かを追い求めるのではなく「今あるもので楽しい、美しいものを見つけて」姿にも感銘を受けました。勇太郎さんは都内で音楽プロデューサーの仕事をしていて、が「当時の僕の生活は、毎日会社に行つて同じ人に会うことの繰り返し。今後はそれをするのはつまらないなと。音楽以外にも、人と一緒に何かをするコミュニケーションツールがあるのだと分かった」と、なんと渋谷の家に行つた2日後に会社を辞め、「パーリー建築」に合流。それ以降、ほとんどの行動をとるに相棒となった。今、彼らが暮らしているのが、津池にあるシェアハウス「ギルドハウス十日町」だ。きっかけは、翔太郎さんが尾道時代に出会った西村治久さん。





提案しているという「Nターン」についても話してくれた。「多拠点居住のことです。少し住んで出ていってもいいし、また戻ってきてもいい。そういう住まい方や居場所のつくり方をおすすめしています。僕らは全国各地に家族をつくるような作業をしているんですね。十日町の家族は、「ここにいるみんなです」。移住や定住はハードルが高いけれど、住み置きなどをしている場所をいくつも活用しながら、自分なりの居場所をつくってほしいのだ。

「最近、勇太郎が『パーリー建築』のロゴを作ったんです。見たら、『建築』ではなくて『築地』になっていたんです。まず、チクケンって間違っ



●近所の人がご飯を持ってきてくれてランチ。●勇太郎さんのカレンダー、なんと週6日制！「曜日に関係なく動いている僕らしい」と笑う勇太郎さん。●全国から訪問者があり2か月でのべ約350人が来たそう。●地元の人からもらった野菜。

**宮原翔太郎さんにとって、わたしの居場所って？**

居場所が変わっていくことが僕らの居場所のつくり方。移動は楽しい。野良猫など、都市にいる動物の生き方もヒントになります。

ているし(笑)。しかもケンの字も違うだろうと思ったんですけど、気づかされたんです。僕らが建てているのは建物ではないな、健やかな生活なのかもしれないって。空間づくりが自分の「居場所」の一つになり、心身の健やかさにもつながる。そんな人生を、彼らは創作している。



豊かな生活って何だろう？  
パーリー建築と「ギルドハウス十日町」に  
流れる、かけがえのない時間。

上/2階の共有スペースで楽器を弾く勇太郎さんと一輝さん。下/2015年6月に「ギルドハウス十日町」で実施した「清治とユージックフェスティバル」に、「大船の芸術祭」前後兼有アートリエントナレに参加するために十日町に集っていたアーティストの渡井裕介さんが演奏し、メンバーと共にライブイベントをした様子。次回は9月18日(土)に美在島駅前広場で「月見音楽祭」を開催予定。

住住者を増やしたい。

**大塚 真さん**

神奈川県出身。株式会社「toiz」を起業し、静岡や新潟で地域プロモーションの仕事をしている。動物好き。

自作の棒、遊戯棒です。

**河合勇太郎さん**

愛知県出身。「パーリー建築」の特設授業講師。格闘家やバンドマンでもある。目標はBBQマスターと筑師。

当ハウスは住人募集中。

**西村治久さん**

埼玉県出身。「ギルドハウス十日町」管理人、Webプランナー。住人たちから祝われている優しい元貴!

**「ギルドハウス十日町」の住人をご紹介します!**

全国に舞をつくりたい。

**山際一輝さん**

愛知県出身。「パーリー建築」の農耕部隊。毎月岡山に遊び、自然農を学びながら十日町市で実践もしている。

漫画が大好き!

**山形真知子さん**

新潟県出身。新潟市に長年住んでいたが、そこで出会った西村さんの構想に興味を持ち十日町市へ、料理を担当。

空き家退廃の精進中!

**宮原翔太郎さん**

東京都出身。「パーリー建築」の建築部隊。目標はコミュニティの拠点として、住居無事所業譲渡を持つこと。

9月から住めます!

**須田 恵さん、あかりちゃん**

新潟県出身。恵さんは理学療法士で、医療職のキャリアカウンセラー。3歳のあかりちゃんはみんなのアイドル!





**地域が変わる！ 馬場正尊さんの、  
エリアリノベーション術。**





エリアリノベーションの提唱者に密着取材！  
馬場さん、よろしくお願いたします。

エリアリノベーションが  
起こる地域の特徴は？

2003年から10年までの8年間、  
仲間とともに「C.E.T.（Community  
Theory）」というアートイベントで、東  
京の東武エリアの神田・日本橋界隈で  
関係しました。地域にある空き物件を  
オーナーさんに頼み込んで貸してもら  
い、田辺さんらと一緒にジャマタ。  
アーチストが表現の場として使い、  
地域全体をギャラリーにするイベント  
です。おもしろかったのは、毎年、C  
E.T.が終わると、開催した物件を気に  
入った観客が借り手となってくれ、賃  
貸契約を申し込んでくること。ギヤ  
ラリーやアトリエ、雑貨店、デザイン事  
務所などが次々と契約し、10年間で1  
00軒以上が空き物件に入居しました。  
それによって、神田・日本橋エリア  
の空気が以前と変わってきました。  
点のリエノベーションが連続されて面と  
なり、エリア全体がリエノベーションさ  
れていることに気づいたのです。

C.E.T.は、今までのまちづくりとあ  
きらかに質が異なっていました。まち  
づくりに見られる手法の多くは、「地  
域をこうする」としてエリアキー型  
の構造で進められるので、「さわり心  
地の悪い言葉だな」と思っていました。  
でも、C.E.T.は違います。行政の補助  
金ももらっていません。参加者が  
自由に、クリエイティブに、楽しみが  
からイベントを開催してました。そ



の結果、エリアの魅力が上がり、  
たのです。後はその現象を「エリア  
リノベーション」と名づけてきました。  
もしかすると、今の時代において、  
地域の变化の仕方はエリアリノベ  
ーションのようになりながら自然なではな  
いかと感じています。C.E.T.のメンバ  
ーのような、仕掛人、は存在するか  
もしれませんが、意図的に、計画的に  
つくり出そうとする変化ではなく、プ  
レイヤーが中心となって、地域の状況  
に対応しながら  
小さな変化を起  
こし、その変化  
が連鎖して、い  
つの間にか地域  
全体の空気が変  
わっているとい  
うのが自然なの  
ではないかと。

単体のリエノベーションによる変化が  
きっかけで、次の変化が連鎖的に起こ  
り、点が面になるにつれて、この後の  
ベジで企画する山形市の地産物の  
れん会、書籍「シネマ通り」の出版の  
エリアリノベーションも、まさに木の液  
絞りが広がっていきように、数か所です  
べてリエノベーションが起こっています。見て  
いると、オノベーションを行うアクテ  
ィブな人は、次のアクティブな人を誘  
い込む力を持っているように思えます。  
人は、些細なことでもいいから具体的に  
なききっかけがあるほうがコミットしや  
すいもの、リエノベーションされた店

地域の魅力を上げる方法論とは？

馬場正尊さんの、エリアリノベーション術。

空き家や空き店舗のリエノベーションが地域に広がり、地域全体がにぎやかになるエリアリノベーション。  
その言葉を提唱した馬場正尊さんが、山形県山形市のシネマ通り界隈のエリアリノベーションを案内します！

photographs by Yusuke Abe text by Kazuo Matsu

特集  
エリアリノベーション術  
Area Renovation  
Life



いまから、  
山形市の街角を  
ご案内します！

買い物をするとか、ご飯を食べながら  
話すとか、イベントに参加するとか。  
そういう機会に、変化の様子や地域  
の温度みたいなものを感じ取って、共  
感し、「私もこのエリアで空き物件を  
リエノベーションして、店を出したい」と  
入ってきてくれるのだと思います。  
そういう人が入ってくるための余地  
が、地域に残されていることが重要で  
す。駅が多い、駅が近い、古いルール  
を強制しない、若い人たちは、ゆるや  
かなルールが人気があります。「おも  
ゆるさじやない」と近頃つくづく感じ  
そんな若い人たちの価値観が入ってこ  
られる余地と、おちかさを保持した地  
域にこそ、エリアリノベーションが起  
こっているように感じます。

シネマ通りに残る  
歴史と文化と人々の記憶

戦後、日本の都市や地域は計画的に  
つくられてきました。急激に増える人  
口と喫煙に伴って、経済に対応する  
ためには、計画的にインフラやハード  
ウェアを整える必要があったからで  
す。ただ、日本は昭和をピークに人口減少  
が始まり、経済も大きな成長は望めな  
くなった今、アップデートランに沿っ  
たものごとを求めていく計画はすでに厳  
格化していると言ってもいい。より時代  
の変化や状況に柔軟な進め方が必要で  
しょう。そういう意味で、エリアリ  
ノベーションは計画的ではなく、工作  
的でです。DIYで楽しく工作する感覚  
で都市や地域をつくり上げていけば、変化  
や状況に合わせて空間をつくり上げる  
ことができるはず。つくりながら考え

完成もしない。突然の変化を歓迎する  
ぐらいの度量を持った主体的な志向を  
持つ地域が、エリアリノベーションを  
成功させていこうと思います。  
また、エリアリノベーションを進め  
ると、地域に関わっていきなれた人が  
関わるようになります。従来の再開発  
は、大きな大きな仕事に取りかかり、  
大勢チームが建てられるので、地  
域の人との交流はありませんが、文脈の  
ないところから巨大なものが高下登で降  
りてきますから、地域になじむはずも  
ありません。一方、エリアリノベ  
ーションは小さな店が軒すつ進められ、  
地域の歴史や文化などの文脈になじみ  
ながら広がっていきます。これまでの  
担い手を新しい担い手が、関わり合  
いながら変化していくのです。

馬場正尊  
はばまさたか ●1968年兵庫県生まれ。建築家。  
「Open A」代表。「東京八不動産」ディレクター。東  
北芸術工科大学教授。早稲田大学大学院建築学  
科修士。神楽屋入社。雑誌「A」編集長を務める。  
2003年、「Open A」を設立し、建築設計、都市計画  
まで幅広く手がけている。著書に、「エリアリノベ  
ーション」の提唱とローカライズ」（学芸出版社）。

エリアリノベーションのヒント  
計画的より、  
工作的に。

戦後から続いてきた計画的なまちづく  
りではなく、DIYを楽しむようにつくり上  
げていく工作的な手法で。

- Open A代表 馬場正尊さんの  
エリアリノベーション術3か条
- 1 高かたい扉へ入る。  
単体のリエノベーションによる変化がきっかけで、次の変化が連鎖的に起こり、点が面になるにつれて、この後のベジで企画する山形市の地産物のれん会、書籍「シネマ通り」の出版のエリアリノベーションも、まさに木の液絞りが広がっていきように、数か所ですべてリエノベーションが起こっています。見ていると、オノベーションを行うアクティブな人は、次のアクティブな人を誘い込む力を持っているように思えます。人は、些細なことでもいいから具体的になききっかけがあるほうがコミットしやすいもの、リエノベーションされた店
  - 2 地域に余地が残されていること。  
駅が多い、駅が近い、古いルールを強制しない、若い人たちは、ゆるやかなルールが人気があります。「おもゆるさじやない」と近頃つくづく感じるそんな若い人たちの価値観が入ってこられる余地と、おちかさを保持した地域にこそ、エリアリノベーションが起こっているように感じます。
  - 3 継承すること。  
歴史と文化、人々の記憶を継承しながら進めれば、これまでのまちと新しいまちとに交流の生みだせる。

きつた姿勢も、エリアリノベ  
ーションの大きな特徴だと思えます。シ  
ネマ通りの歴史と文化と記憶を大切に  
しながら空き家、空き店舗の再生に取  
組んでいることで、開発ではなく、世  
代を超えた交流が生まれているのです。  
一つ、気づいたことがあるのですが、  
記憶の継承を表すシンボルとして、多  
くのリエノベーション物件が、前の「看  
板」を残すかたちでデザインされてい  
るのが印象的でした。看板には、オ  
ナーやお客様の記憶が刻ま  
れているからでしょう。





シネマ通り界隈のエリアリノベーション。  
何やら楽しそうなお店や施設があちこちに！



●「ミサワクラス」の模型を手にとって話す馬場さんと、住人の塩真一さん。天井には旧「三沢旅館」の看板がランブレードとして飾る。●「ミサワクラス」の外観。4階と2階部分が新築した構造。●ダイニングルームの様子には、住人それぞれの私物が入れられる。●住人の建築家・工藤昭太さん。笑ってる？ ●住人のデザイナー・早野花奈さん。●実際に撮影中。●ポストは一つ。誰が仕分けるのかな？



**ミサワクラス**  
山形県山形市本町1-7-24  
tel.080-6068-8122(工藤昭太)  
https://m.facebook.com/ミサワクラス  
-2013546265637698

**CHECK POINT!**  
シネマ通り界隈にリノベーションが波及するきっかけとなった物件。学生二人は、卒業設計として設計から実務まで行いました。

元・旅館をリノベした、  
シネアハウス「ミサワクラス」。

2009年、東北芸術工科大学の学生たちが、以前は「三沢旅館」という旅館だった建物を「シネアハウス」とリノベーションしたい」と、建築・環境デザイン学外の当時は准教授だった馬場正尊さんに相談。山形市の街の中心

部、シネマ通りから少し離れた好立地にありながら、旧「三沢旅館」は数年間、空き物件となっていた。学生たちは、馬場さんのサポートを受けながらオーナーにプレゼンを行い、リノベーションを行う承諾を得た。構想に関わるような難しい部分は大工さんが手がけ、学生たちはシャワー室をDIYしたり、ペンキを塗ったりして手伝った。

そうして完成したシネアハウス「ミサワクラス」もすでに8年が経ち、すっかり地域に溶け込んでいる。

おもしろい話がある。「ミサワクラス」に移住していた学生たちは、隣も空きビルになっていることを発見。オーナーに頼み、山形国際ドキュメンタリー映画祭の開催期間だけ無料のカフェやドミトリーを、パフォーマンスと

して行った。その後、ビルの1階には素材にこだわった1ドーナツ屋が入居した。すると、少し離れたところでも前から営業していた大手チェーンのドーナツ店がお客を奪われたのか、撤退。「そんなふうには地域の様子が変わってきています」と馬場さん。「ミサワクラス」は、シネマ通り界隈のエリアリノベーションのきっかけとなった。



**まちの雑貨屋 chotto futto**  
山形県山形市七日町3-2-B  
tel.023-631-2503  
www.chottofutto.jp

**多田祐子さん**  
「まちの雑貨屋 chotto futto」店主  
「古い服、祖父と父の仕事場だったので譲るのは差がないし、何かに活用できないかと。ただ、古い服をどうおもしろく生かせばいいかわからず、セミナーに参加しました。今後のエリアリノベーションの一歩として参考になれば幸いです。」

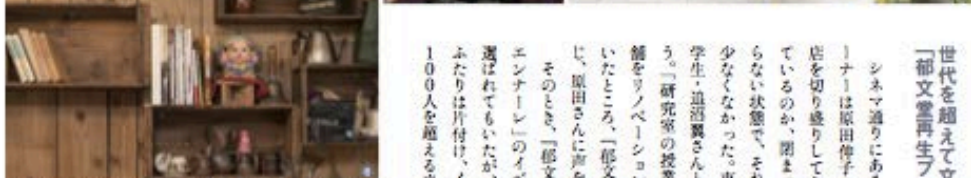
**CHECK POINT!**  
廃院された「多田病院」の跡を巡る度に気になっていましたが、雑貨屋さんになって買えました。病院の歴史をうまく生かしておられます。



こちらにも、シネマ通りから歩いてすぐのところにある「まちの雑貨屋 chotto futto」。なんと、以前は病院だった。「祖父と父が営んでいた「多田耳鼻咽喉科医院」でした。父が高齢で引退し、病院だけが残ったのですが、愛着があるので壊せないし、古いかうまく使えない。貸すのもなあと悩んでいたら昨年、七日町商店街振興組合の主催でリノベーションセミナーが開かれたので参加しました。私は10年ほどネット上で雑貨販売を行っていたので、その実店舗をつくらう」と、店主の多田祐子さん。「毎日見てきた建物。自分では、どこまで残してどこを壊せばよいかわからなかった。第三

者の建築家のアドバイスを受けながら、リノベーションを行いました。」  
待合室、受付、診察室、処置室など間取り自体はそのままに、床を張り替え、待合室のガラス窓を取り換えた。入り口の扉には2階の引き戸を活用。雑貨が可愛らしく見えるよう、使える什物はそのまま残した。「白い棚は医療器具が入っていた棚です」と笑顔で話す多田さん。「これはカルテ入れ、商品を置く台はベッド」と病院時代に使われていた設備を説明してくれる。それを聞いていた馬場さんが、「痕跡の残し方がいいですね」と言った。「ここで育った多田さんの、建物に対する愛情がうかがえます。」  
以前、連院していた患者さんも、院内の変わりように驚きつつ、懐かしそ





●リノベされた店内。入り口から入って左側が、原田さんが販売する本の棚。右側がコミュニティスペースの貸し出し本棚。意外におしゃれに、●マルシェで使う舞台を手づくり。●2023年の創業当時、街の通りにあった。●学生たちと原田さん(右)は、孫とおばあさんみたい。●本業でつくった本棚。

**都文堂書店**  
山形県山形市七日町2-7-23  
ikubandotutzare@gmail.com  
◎州・金・土・日曜

**Interview**

追田 賢さん/芳賀耕介さん  
「都文堂書店」運営者  
壁をガラスで囲り、フローリングをつくる作業はワークショップで行いました。自分たちが楽しめる場所をつくらうと決めたのですが、今は、地域のためになればと願っています。「都文堂サロン」と呼ばれた文化性を受け継ぎ、伝えていきます。

**Interview**

**CHECK POINT!**  
自分が都文堂、自分がライブラリーというユニークな書店に、学生たちは会社をつくり経営したいと願っていました。期待しましょう!

世代を超えて文化を受け継ぐ、「都文堂再生プロジェクト」。

シネマ通りにある「都文堂書店」。オーナーは原田伸子さん、81歳。長年、店を切り盛りしてきたが、近年は開いていないのか、閉まっているのか、わからない状態で、それを気にかける人も少なくなかった。東北芸術工科大学の学生・追田賢さんと芳賀耕介さんもその「研究室の授業の一環で、空き店舗をリノベーションする物件を探していたところ、「都文堂書店」を魅力に感じ、原田さんに声をかけました。

そのとき、「都文堂書店」は「山形ビエンナーレ」のイベント会場の一つに選ばれてもいたが、店内は荷物の山。ふたりは片付け、イベントも無事開催。100人を超える来場者で賑わった。

その後、ふたりの「都文堂再生プロジェクト」は本格的に開始。クラウドファンディングでリノベ資金を募って100万円以上の支援を集めた。施工業者の横で機を磨き、ペンキを塗り、棚をつくった。そして、かつて同馬達太郎が訪れるなど、「都文堂サロン」と呼ばれた文化を受け継ぎ、交流を築き上げる本の床のスペースと、月1000円のレンタルボックスを設置してオススメの本を並べるなど、和やかなコミュニティスペースをつくり上げた。「年を取ると身仕舞いばかり考えて、でも、学生さんにこんなにしてもらって、年を重ねても地域のお役に立てるんだと、今は前向きな気持ちです」と満面の笑みを浮かべる原田さん。

世代を超えて、シネマ通り界隈のエリアリノベーションが広がっている。

シネマ通りのシンボル、人が集まる「どんがりビル」。

「どんがりビル」は、シネマ通り界隈のエリアリノベーションのシンボルとも言える存在。築55年の築古ビルを、人が集まる場としてリノベーション。4階建てのビルの1階には食堂「BIBO」と山伏の坂本大三郎さんがセレクトする本と雑貨を販売する「十三時」、ギャラリー「KUGURU」が入



**Interview**

小枝 裕実さん  
真央「Futaba」マネージャー  
昨年8月に神奈川県から移住し、兼任しました。「この頃、シネマ通り界隈におしゃれな店が増えてきて」と近所のおばあさんに声をかけられます。そんなおばあさん、おじいさんからシネマ通りの昔話を聞かせていただき、知識を得ています。

**Interview**

**CHECK POINT!**  
僕も取締役を務める「マルマル」が管理・運営、クリエイティブなビルを目指し、「アカオニ」や「ティンバーコート」を継いでいます。

**どんがりビル**  
山形県山形市七日町2-7-23  
tel.023-679-5433(マルマル)  
www.tongari-bldg.com



**BOTA coffee**  
山形県山形市七日町2-7-18  
tel.023-888-8859  
http://bota-coffee.com

**Interview**

佐藤 英人さん  
「BOTA coffee」店主  
エリアをフィールドに人が活動するよう環境を整えています。「ヒラタクワース」のアーティストがライブを行ったり、「都文堂書店」や「どんがりビル」でも交流しながら、コーヒーを飲むだけではない、いろんな人が使う空間になれば。

**Interview**

**CHECK POINT!**  
エリアリノベーションのポイントは、経済的に自立していること。だからこまめに、エリア内にリノベ物件を探ることもできます。



地域を元気にするのは、リノベに挑戦するプレイヤー。

2014年に開業された「山形リノベーションスクエア」のサブユニットマスターを務める佐藤英人さん。リノベーションを行う課題物件として、シネマ通りで3年間ほど空き店舗だった

田、「洋傘のスズキ」に目をつけ、オーナーに承諾を得た。しかし、リノベーションには費用が必要のため、参加者が戻らぬ。誰か手を挙げなかったら、佐藤さんが名乗り出た。初期費用は自己資金が100万円、800万円を日本政策金融公庫からの借り入れした。実は当時、地元の不動産会社に勤めていた佐藤さん。「地域を元気にするために必要なのは不動産業者ではなく、空き物件をリノベするプレイヤー。それに気づき、5年勤めた会社を辞めました」。

セルフリノベーションをして始めたのは、好きだったコーヒーの店。2階はイベントスペースとして活用。7月にはシネマ通りでマルシェの開催も予定するなど、コーヒー店主にとどまらず、さまざまな活動で人の交流を生み、エリアを盛り上げている。



# 桃色ウサヒ・佐藤恒平さんの 「地域の編集術」論。







作家 地域の編集術 EDIT LOCAL

自分のまちを見つめ、発信する！  
佐藤恒平さんの、

# 地域の編集術」論。

大人気となった「桃色ウサビ」のなかの人として、山形県・朝日町で町民参加の地域づくりを実現し、現在は「まよひが企画」の代表として活躍している佐藤恒平さんに、「地域の編集術」に関する質問に答えてもらいました！

photographs by Kenji Hironaka text by Kenji Hironaka

2014年1月、僕は山形県・朝日町で独立し、「まよひが企画」という小さな会社を立ち上げました。以来、実践的かつ挑戦的な地域編集を企画・運営するさまざまな仕事に携わっています。戦場と戦術があるとしたら、弊社は戦術と戦術を考える会社です。クライアントが地域づくりの目標に通り着けるよう、戦術面でサポートするというのがスタンスで関わっています。

地域づくりで心がけているのは、笑顔。地域をいくくりにとらえることはせず、喜ばせるべき相手は誰か、その人をどういう笑顔にするか、目の前の人と向き合うようにしています。やっつけていることは地域づくりですが、相手は人です。実は、僕の目標は大学で地域おこしの理論を研究し、教えること。

## QUESTION 佐藤さんが考える、よい地域の編集術って？

その準備として、「まよひが企画」を立ち上げたとも言えます。ウチとの垣から実践する「非主流地域編集」の理論の追求も兼ねて、地域編集には、3つのパターンがあると考えています。主流地帯編集はある地域で成功した手法を自分の地域で再現することによって、同様の成果をめざすものです。それに対して、「反主流地帯編集」は、どの地域も目指している山の頂上を目指さず、むしろ谷間に目を指すような山を、海を指す手法を例えれば「村」運動を巨額タカシメの奨励に転換するとか、日勝タカシメは、今やそれが主流になっていきました。僕が実践しているのはその両方でもなく、「非主流地帯編集」です。主流と同じ山の頂上を目指すが、1歩を3、4歩、用意しておきま

す。そのなかの1本を、クライアントに選んでもらうのです。その1本のルートを選ぶ過程でしっかりと選んでもらいます。この「選い」こそが、地域おこしには重要なのです。いわば、地域の編集方針を決定する大切な時間ですが、迷えば迷うほど、後で苦しいことになって、「あのとき、みんなで悩んで決めたのだから、もうちょっと頑張ろう」という覚悟を持つことができません。そうして、迷った末にようやく決めた1本のルートを、覚悟を決めて、歩き始めます。これが、僕の咽える「非主流地帯編集」です。

**町民を巻き込みながら、空気が社のお土産づくり。**

4、5年前、町内にある空気が社のお土産コンペを行いました。空気が社は正式な神社ではなく、環境オプジエのようなものですが、空気に感謝するというユニークなコンセプトから、貴重な観光資源

になっていきました。お土産がほとんどなかったのです。観光協会から依頼があり、地域おこし協力隊員だった僕はその仕事を受けました。「三種の神器計画」と名づけた、2年間で完成させるプロジェクトでした。1年目に2種のお土産をつくりました。一つは、「空気が社のお祝いブチブチ」指先でブチブチと潰す気袋緩衝材の香りを、無償で提供してくれる町外の業者さんとコラボしてつくりました。たが、町外の業者さんを使うと、「町の資本が外に流れる」と嫌がる人が必ずいます。そこで、もう一つのお土産を用意しました。「144分の1ミニチュア空気が社御守り」です。こちらは、なるべく町内産の素材を使い、町内の企業に加工してもらいました。御守りだけでなく、「地元でつくって

いては広がりがない」という指摘が飛んでくるはず。でも、その相反する2種のお土産を同時に発売することで、互いのネガティブな意見を相殺する効果を狙ったのです。案の定、反対意見はすたすたと消えていきました。

さて、プロジェクト名は「三種の神器計画」です。もう一種の「神器」が起りません。僕は、もう一つ想定されるネガティブな意見を想定していません。それは、「私だったらもっとセンスのいいお土産がつくれる」という個性豊かなある批判的な意見です。そこで、3種目のお土産は、町民公募のコンペで行いました。賞金は5万円。小学生も親の同意があれば参加の予定です。結果、約70点の案が応募されました。朝日町の人口は約7000人なので、100人に1人が応募した計算です。約70点から3点に絞り、イラストレーターがアイデアを絵にして、懸賞サイトに掲載し、人気投票を行いました。選ぶ人は町民ではなく、町外の人から投票してもらいました。それから10名に朝日町の特産品をプレゼントすることにしました。それによって、お土産開発のマーケティングもできました。

## ANSWER まちの皆さんと、地域の編集方針を共有すること。

年生の梅津樹くんという男の子が考えた、「空気が社のおみくじ空気が1」でした。空気がタカシメをかけたネーミングも秀逸で、見事、賞金5万円を獲得しました。このタカシメはレギュラー的には販売していませんが、イベントのときなどに出ることがあります。そんなように、ちょっとしたお土産づくりでも、主流ではなく、非主流の手法を採ることで、町民に地域おこしの意識を高めてもらい、町の編集方針を共有しながらつくることのできるのです。



**佐藤恒平**  
2014年朝日町出身。東北産業工科大学卒業、同大学院で地域経済学専攻。2010年、地域おこし協力隊として山形県朝日町で地域編集アドバイザー兼職員に就任。専任の職である「桃色ウサビ」による朝日町のPRを後援、集積の手続きによる地域編集プロジェクトを手がける。14年1月、地域編集サポート会社「まよひが企画」を朝日町に設立し、副社長兼COOに就任。同年10月、朝日町を代表して、自治体や企業間の事業サポートを行っている。

山形県・朝日町産地地区、ゲストハウス「松本第一會舎」の敷地で、ウサビの顔を持つ佐藤恒平さん。



佐藤さん、  
教えてください！

## 地域を

# おもしろく編集する

「佐藤君には英語と、コンピューター、動画が大好き。そう話す佐藤さんに、地域の編集者のウツクを教わろう！」

**Q UCTION**  
ウサビのグッズは  
どうやって開発するの？



ウサビのキャラクターグッズはたくさんあり、朝日町役場のエントランスに飾られています。自慢したいのは、誰か読んでくれるもの、誰か読んでくれるもの、すべてまの昔さんが「つくりたい」と自主的につくってくれたものばかりだ。この「つくりたい」という思いが、朝日町の「近江屋」さんでは、ウサビのオリジナルペン、全画・販売していますが、これまでに5000本以上売られています。東京からも夜行バスで買いに来られるのですから、すごい！



左ノ町役場のエントランスに飾られた近江屋のウサビグッズ。ランゴ農家がつくるトートバッグ、ランゴ、湯島(現在は別の店名)など市民が手製のグッズが並ぶ。左ノ「近江屋」の藤本聡さん、息子の結心くん、母の久美子さん、ウサビ、大好き！

# Q & A

**Q UCTION**  
学校で授業も行ったの？

朝日町立大谷小学校で「ランゴの移動販売車をつくる」授業を、僕とまよひが企画のスタッフと先生になって行いました。原簿計算をする経験、セールストラクを考える困難、土地の歴史を知る、できれば販売まで。授業を通じてランゴ農家になりたい子どもを育てるのが目的で、そのため



ランゴを載せる自や移動販売車のラッピングなど、4年生の児童が自分たちで考えた。

**Q UCTION**  
「まよひが企画」の名前の由来は？

「まよひが」というのは、民俗学者・朝日町民の「遠野物語」に描かれている、見つけると幸せになれる家のこと。ただ、道に迷わなければいけない場所にある家とされていて、しかも、そこからお礼や何かを盗んでこないと幸せにならないのです。つまり、道に迷いながら、自分で目的地に辿り着

**A ANSWER**  
町のランゴの  
移動販売車をつくり、  
販売しました！



2016年の6月から10月、総合学園の授業で実施！



2014年9月に設置しました。一緒に遊ばせよう！

**A ANSWER**  
「遠野物語」から拝借。  
地域おこしにも  
通じるものが

**Q UCTION**  
朝日町の  
ふるさと納税の  
デザインも？

町から「まよひが企画」で清い負い、デザイナーの後輩・青木亮太さんを地域おこし協力隊としてスカウトしました。Webサイトからポスター、お礼品を運ぶダン



ふるさと納税、朝日町民に、お礼品を届けています！

**Q UCTION**  
地域を編集する  
ための小道具は？

地域おこしの講演の後に、希望があれば、市販のボードゲームで遊びながらまちを語る無料のゲームを贈ることも。質問を買って自分のまちをつかっていく「街コロ」とか、無人島を開拓する「カタン」とか。ゲームで遊んだ共通の体験があると、普通の言葉とは違うコミュニケーションが得られることがありますから。



デザインの講師を地域の人がサポートして遊ばせた。

**Q UCTION**  
この番付表は何？  
山形は相撲が盛んなの？



商工会女性部からの依頼で、朝日町のお取り寄せギフトをつくる勉強会をしました。そこで朝日町



**A ANSWER**  
僕です。  
人気のない家を  
採用しました(笑)。

**Q UCTION**  
ウサビは  
誰がつくったの？

ウサビはキャラクターとしても、遊ぶのみでもあまりに普通すぎました。だからこそ、町民の皆さんが独自のアイデアを追加してくれたのです。この頃



ウサビの書くみでサッカーもスキーもできるよ！

町民が選んだ「朝日町事件」、朝日町は朝日町立大学で、西がリンゴ、東を朝日、西に朝日町のためにつくられた。

2014年6月に赤松神社で挙げました。町内に移る金属工業作家の牧野広大さんに指輪を、キヤンドル作家の安藤龍二さんに鉢巻キヤンドルをつくってもらい、朝日町の朝日町のワイヤー日本酒を振る舞い、チエリニョーの会に切ってもらった瓦を椅子にしたり、式に必要なものは朝日町のもの

**Q UCTION**  
美幸さんとはどんな結婚式を？



白服をリメイクし、近江屋をイメージしたウェディングドレスは、朝日町のデザイナーの先生が作ってくれました。

**A ANSWER**  
指輪もワイヤーも椅子も、  
ほぼ町内産で揃えました。



ふるさと納税のボードゲームで朝日町民をゲット！

**A ANSWER**  
ボードゲーム。  
講演会の後に、  
参加者と遊ぶ  
こともあります。



ボードゲームを遊ぶながら、朝日町民をゲット！



QUESTION 佐藤さんがいま、地域の編集で熱中していることは？

「まよひが企画」の仕事の一つに、移住・交流推進事業があります。その一環として、2017年1月に朝日町常盤地区にオープンしたばかりのゲストハウス「松本亭一農舎」の管理・運営も任されています。



Deen Aの岡本正徳さんがリノベーションを監修!

●朝日町と「まよひが企画」が協賛するゲストハウス「松本亭一農舎」。tel.0257-94-0980 www.tno.jp ●母屋と裏の研修部、裏には徳田町の部屋がある。●「文庫」の机、ものを置くには読書の部屋、W-F6完備。●玄関、須賀は現在社の企画工芸部・佐野正太さんによるもの。



引きずりうどん! うますぎる!



●山形名産、引きずりうどん。その、つけ汁、玄米のサバ、新巻、卵、干し芋、醤油をかき混ぜ、器でうどんをつけて食べる。●朝からうどんを引き上げているのは、常盤町から早稲に来たお客さん。旅館おこし協力部の橋本真流さん。●食後はボードゲームに興じる。

「松本亭一農舎」の管理・運営も任されています。元「松本亭」の先生だった松本さんから名をいただきました。引っ越しをされる際に、建物を無償で寄付してく



町をまるごと博物館とらえた地域づくりを推進する「朝日町工芸部」部長の長岡真実さん(左)。「編集の先輩の長岡さんからの町史や文化を学んでいます」と佐藤さん。

「松本亭一農舎」や僕らを見守ってくださっています。今夜は、地域の仲間が集まるので、山形の郷土食である引きずりうどんをみんなで作ろうと思います。ゲストハウスのお客様にも、そんな地域の方々との知らないふれ合いや食文化を体験してもらいたいです。

そうそう。最初のQ&Aで挙げた、「空友神社のお土産コンペ」で賞金5万円を手にした、当時小学生だった梅津航樹くんも来ています。赤白タレーのブロックチェアットのシャツを着た彼(写真)です。後日談で

ANSWER ゲストハウス「松本亭一農舎」からつながる関係性です。



町の呉羽物産さんが求めたのれんにロゴをデザインしたのは、地域おこし協力隊の奥本浩太さん。地域のデザイナーとして関わっている。



ムーちゃん(左)と朝日町! レンズ貸して!



毎日、練習しましたー!

●佐藤さんと奥さんの朝日美幸さん(右)、朝日町のムーちゃん。●「松本亭一農舎」を管理する水沼祥乃さん(右)と読書の水沼浩太さん(左)、朝日町町長さん。●「まよひが企画」のゲストで仕事をすることは多々。

すが、梅津くんは5万円の資金でブログランキングができるロゴを買いました。1か月後、お母さんから、「息子がロゴで映像をつかったので見てください」とのメールが届きました。見る、ロボット製のウサビが「空友神社のおみくじ空つぎ」をPRする映像でした。僕は、何事も筋道を立てて企画する人間だと自覚していたのですが、これは予想外。映像を見ながら、涙を流してしまいました。小学生の梅津くんは、僕以上にこの町の編集者だったのです。

半まで「松本亭一農舎」に遊びに来ることを許可してもらいました。Aの仕事を打ち合わせ先に連れて行ったことでもあります。そんな彼が、仙台の高校に合格し、今春から朝日町を出て寮生活を始めることになりました。いなくなるのは寂しいですが、外で頑張りたい、ときどき僕にも会いに来てくれたらうれしいです。

地域で活動するときは、その活動の意味を伝えることが大事。地域おこし、地域の編集には、伝えたい相手がいることが大事。奥本さんは、子どもたち、地域の魅力をまねたけにつなぐ。



「松本亭一農舎」の開業に、佐藤さんと管理人、地域おこし協力隊、地域のお客さん、お客さんも集まって、ウサビの決めポーズで「ハイ、チーズ!」。

「まよひが企画」代表 佐藤恒平さん。Excal Site www.mapigai.jp



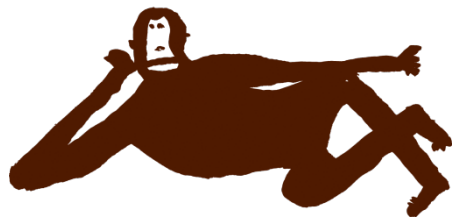
地域の編集者3名は、道東する地域おこしは、仲良く地域編集。土産でも、反土産でもない、非土産の地域編集。同じ山の頂上を目指すが、大きくルートはこれまでにない道を歩む。



# 『Next Commons Lab』の 未来デザイン。



ゴミ、捨てんなよ!







名前は、  
『Next Commons Lab』  
メンバーは  
個性あふれる人たち。  
いつたい、どんな動き？



アワードで  
新しい社会を  
考えています！

岩手県遠野市「Next Commons Lab」事務局 | www.nextcommons.jp



岩手県・秋田県界の  
『遠野市』で知られる岩  
手県遠野市の田舎風景。  
人口は約2万6500人。



岩手県遠野市。  
ソーシャルデザインの  
コミュニティが  
生まれています。

特集  
地方のデザイン  
Local Design

ホスト資本主義社会を具現化する！

# 『Next Commons Lab』の 未来デザイン。

今の社会が、「生きにくいな」と思ったことはありませんか？  
『Next Commons Lab』発起人の林篤志さんもそんな一人。  
「だったら、新しい社会システムをつくっちゃえ!」と、  
岩手県遠野市で始まった期待値大のプロジェクトをご紹介します!

photographs by Hiroshi Takaoka text by Kentaro Matsui



社会はなかなか動かない。  
だったらつくっちゃえ!

快適な現場所、ヘルシーな食事、自由な仕事ができる環境、予防医療、エネルギー、子どもの教育。例えばそれらを月3万円ですべて受ける。そんな未来の社会システムをデザインするのが、岩手県遠野市の「Next Commons Lab」(以下、NCL)というプロジェクトだ。「未来の、ではありませんよ」と早起人の林邦志さんは遠野の森に買った古民家の庭で陽光を浴びながら言う。

「2018年には、全国10か所で「NCL」を立ち上げますから」  
林さんが手がける「NCL」とはどんなコミュニティなのか。林さんお手製のカレーを食べながら尋ねると、「コミュニティと言うか……」と林さんはカレーをすくう手を止める。「NCL」は、共通の価値観をベースにしたメンバーが集まるアンチエシエーション(結社)に近い。今、遠野に16名のメンバーが集まり、10のプロジェクトを立ち上げています。そうやってパソコンを開くと、「NCL」のサイトを覗き、10のプロジェクトを示した、「ピルブルづくり」もその一つ。遠野は



Next Commons Lab 発起人 林 邦志さんの 地方のデザイン3か条

**共通する価値観。**  
地域、価値が薄れ、暮らしのカタチも変わった今、新たな「つながり」は価値観の共通から生まれる。

**“見える”ではなく“つくる”。**  
社会を変えるなんて大事なことではない。暮らしをよりよい新しい社会の仕組みをつくる。

**スピード感が大事。**  
2018年までに10か所、20年までに100か所の「NCL」をつくるために、走り続ける。

「Next Commons Lab」の発起人・林邦志さん!

地域のさまざまな資源と人材をつなぎ、誰もが「つくる人」として参加できる。開わりが広がってくださる。

どんな社会か、やってみなければおぼやせん!

●「NCL」のスローガン、「ポスト資本主義社会を具現化する」。●「NCL」の発起人、林邦志さん。「自分で立て、考えて、決めて、理想の暮らしや社会をつくっていく、それが自ら出る」。自由だとあって「NCL」を立ち上げました。●林さん家族が東京との2拠点生活を営む。遠野の森の中の築30年の古民家。五人に月つづけてもらって購入。●家のそばを流れる小川。「イワナ、入れ替いでしょ」。●スズメの横で3匹の豚を飼う「マイクログリッド」。●古民家からもう野営やピルブル遠征に出るビルで暮らす。●おもしろいほどピルブルシートになる。



トップの栽培面積が日本一。ただ、担い手不足も課題です。地域資源であるトップの栽培からフラットビールの醸造、ブルワリーの経営、ピルブル、スズメまで手がけながら、遠野に新たなビール文化を根付かせようと取り組んでいます。

醸造所はまだない。物件を探している段階で、醸造家も今は東京のビール工房で修業中だ。彼らが醸造技術を身につけたら、17年夏から醸造所をオープンします」と林さんはカシを口に運び、「NCL」の仕組みをパソコンで説明した。

「日本の社会システムは巨大で複雑。やりたいことも簡単にできません。お金を稼がないと生きていけない。「自分には合わないな」と思う若者が増えるのも当然。だったら、国家や資本主義というレイヤーの上に、もう一つ別のレイヤーとして新しい社会システムをつければいい。既存の社会を「変える」のではなく、新しい社会をデザインし、僕らが生き



里山経済プロジェクトでリノベーションをする民家。里山体験ができるゲストハウスの予定。

る選択肢を、つくるのです」  
国家? 資本主義? レイヤー? 「例えるなら、既存の国家や資本主義経済はウィンドウズ95のOS。古いOSだから、僕らの望む生き方も最新のアプリケーションである10のプロジェクトも、動かそうとしても動かない。だったら、新しいOSを自分たちでデザインしちゃえって話。それが「NCL」です」  
スローガンに、「ポスト資本主義社会を具現化する」と謳うものの、林さんたちのプロジェクトは、かつての活動家の「こんな社会なんてぶっ潰せ」と拳を振り上げる、革命ではなく、ニユートラルな印象だ。



「みんなの意見を出して、みんなで決める。それがNCLのルールだ。」

「NCL」のメンバーが市街地にある「Commons Cafe」に集まった。「NCL」が目指す社会のあり方をディスカッションする中で、こんなやり取りも聞かされた。

田 移住をして新しい生活の中で、「誰かに手伝ってもらえると助かるな」と思うことは多いし、実際にサポートをもらっているけれど、収入を得るための仕事が忙しかったら、そんな余裕はないかも……  
林 その人がどんなスキルや資源を持っているか、どんな交換が行われているかをテクノロジーによって可視化・ネットワーク化し、仮想通貨も存在させるから、時間や労力やスキルの交換はもっと簡単にできるよ。生活の困り事にも「時間あるから手伝うよ」と誰かが手を



●Commons Cafeの2階で開かれた「オープンラボ」。NCLのメンバーが集まった。●入口を開ける林さん。●前の建物で使われていた土壁や梁材を再利用。遠野の事業者の仕掛けのプラットフォームになることも期待。●商店街に向けて開かれた露店風の店内。ライブラリーやキッズルームも併設。●遠野商店」と呼ばれ、旅行が楽しい。





「Next Commons Lab」のラボメンバーが集結！  
ある日の重要なセッションの実録。

「オープン・ワグ」を進行する林さん。



「オープン・ワグ」を進行する林さん。

2



自己紹介から、始めます。



早く醸造の準備を済ませよう。



誰にでも平等に貢献コストの発生を!

4



メンバーが議題で話を始めたのは初めて、ワクワク感が高まる!

お存じの任令知恵は、生かされています。

6



若手団体が、長話の勧誘や探訪も行っている及田さん。

その話、僕でもっと聞かせてー!

5



メンバーは10名の応募から選ばれた16名の起業家たち。



あるグループから出された案文の高、新しい国の憲法みたい!

本例の資本は知識力! 林さん、力が入っています。



「NCL」の案文を考えた。「あ、それいいね!」。

「NCL」が目標する社会のあり方をグループ別に感じたい、発表。

動き出した10のプロジェクト!  
ラボメンバーを紹介!

<p><b>事務局長</b> 藤原 貴子 NPO「ピースポート」には10年間の経験。起業を志す。世界は面白い。その思いを様々な形で表現したい。</p>	<p><b>事務局長</b> 藤原 貴子 NPO「ピースポート」には10年間の経験。起業を志す。世界は面白い。その思いを様々な形で表現したい。</p>	<p><b>事務局長</b> 藤原 貴子 NPO「ピースポート」には10年間の経験。起業を志す。世界は面白い。その思いを様々な形で表現したい。</p>	<p><b>事務局長</b> 藤原 貴子 NPO「ピースポート」には10年間の経験。起業を志す。世界は面白い。その思いを様々な形で表現したい。</p>
<p><b>事務局長</b> 藤原 貴子 NPO「ピースポート」には10年間の経験。起業を志す。世界は面白い。その思いを様々な形で表現したい。</p>	<p><b>事務局長</b> 藤原 貴子 NPO「ピースポート」には10年間の経験。起業を志す。世界は面白い。その思いを様々な形で表現したい。</p>	<p><b>事務局長</b> 藤原 貴子 NPO「ピースポート」には10年間の経験。起業を志す。世界は面白い。その思いを様々な形で表現したい。</p>	<p><b>事務局長</b> 藤原 貴子 NPO「ピースポート」には10年間の経験。起業を志す。世界は面白い。その思いを様々な形で表現したい。</p>
<p><b>事務局長</b> 藤原 貴子 NPO「ピースポート」には10年間の経験。起業を志す。世界は面白い。その思いを様々な形で表現したい。</p>	<p><b>事務局長</b> 藤原 貴子 NPO「ピースポート」には10年間の経験。起業を志す。世界は面白い。その思いを様々な形で表現したい。</p>	<p><b>事務局長</b> 藤原 貴子 NPO「ピースポート」には10年間の経験。起業を志す。世界は面白い。その思いを様々な形で表現したい。</p>	<p><b>事務局長</b> 藤原 貴子 NPO「ピースポート」には10年間の経験。起業を志す。世界は面白い。その思いを様々な形で表現したい。</p>
<p><b>事務局長</b> 藤原 貴子 NPO「ピースポート」には10年間の経験。起業を志す。世界は面白い。その思いを様々な形で表現したい。</p>	<p><b>事務局長</b> 藤原 貴子 NPO「ピースポート」には10年間の経験。起業を志す。世界は面白い。その思いを様々な形で表現したい。</p>	<p><b>事務局長</b> 藤原 貴子 NPO「ピースポート」には10年間の経験。起業を志す。世界は面白い。その思いを様々な形で表現したい。</p>	<p><b>事務局長</b> 藤原 貴子 NPO「ピースポート」には10年間の経験。起業を志す。世界は面白い。その思いを様々な形で表現したい。</p>

自ら考え、手を動かせば社会も未来も変わっていく。  
かつこよくて、新しい仕組みのはじまり。

挙げる。生活全般や仕事の場面でも。重要なのは、共通の価値観をベースに「つながっていること」。

林 文化人類学者のロビン・ダンバーによれば150人が限度と、それが、強い人間関係を維持できる範囲。

ただ、もっと広がると思います。各地の「NCL」の交流が盛んになれば……

昨日、林さんはカレーを食べながら、「NCL」同士の交流についてうろついていた。「スマホを買ったらデフォルト(標準設定)でアプリケーショングラフィックがうまいように、例えば遠野でうまくいったスマートフォン、ピ

ジネスや暮らしのモデルを、あらかじめ「NCL」のOSにインストールすることで、各地にスケールアップ(水車展開)しやすくなります」と、「NCL」のデフォルトとは、冒険にも書いた快活な遠野、ヘルシ

17年中に6の自治体で「NCL」の導入が決定している。協議中の自治体も数がある。新たなOSをオ

「今から「NCL」の条文をつくろう」とメンバーは呼びかけた。

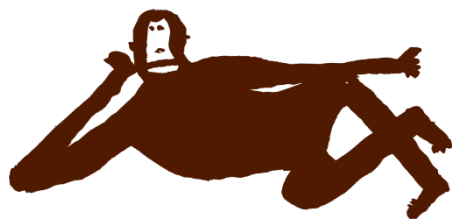
ミーティングは夜まで続いた。どんな「ポスト資本主義社会」が具現化するのか、今後を注目しよう。



『蔵庭』という場所が  
生まれたストーリー。



ゴミ、捨てんなよ!





島根県江津市を流れる中国地方最大の川、江の川。江川とも呼ばれ、流域の人たちの心を潤す。

特集  
日本の地方に住んでみる  
2017  
Creating a Life in the  
Countryside

関わりを  
持つことになった  
まちを流れる、  
大きな川。

マジックアワーが  
美しい!



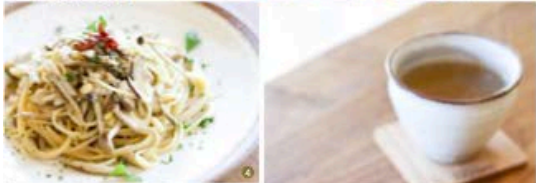
運命の出会いで、  
関わりを持った3人。

選いところを、  
ようこそ!

蔵庭  
ようこそ蔵庭へ  
-fumugi-  
10:00-18:00 (大) (木) 休  
-kuraniva-  
(木) 11:00-18:00 (drink)  
(金) 11:00-18:00 (lunch)  
(日祝) 8:00-18:00 (morning  
lunch)

カフェもベーカリー「蔵庭」で迎えてくれた戸田幹一蔵さん、津さん夫妻(右・中央)と幹士純子さん(左)。





●「蔵庭」のキッチンと、隣には「tsumugi」の工房が。●煮リンゴとアプリコットのタルト、バター、乳製品、卵、砂糖などは不使用。●ひよこ豆とジャガイモのコロッケ、専属の電田揚げ八丁料理がほぼ週替わりで楽しめる玄米プレート。●「はんぱん」●キノコのペロンチーノ。●スパゲティの味のボウウ。●リバベーションキャンプでつくられたホール。

マクロビオティックの料理やスイーツを、  
江津の人たちに食べてもらいたくて。  
地域の飲食店さんとも共存しながら！

安心・安全を  
心がけてます！



戸田新一郎さん  
東京都八王子市生まれ。「蔵庭」代表、映像制作やドローン撮影、写真撮影、ウェブ制作などを幅広くこなすコンテンツディレクター。「Vege & Fork Market」主宰。



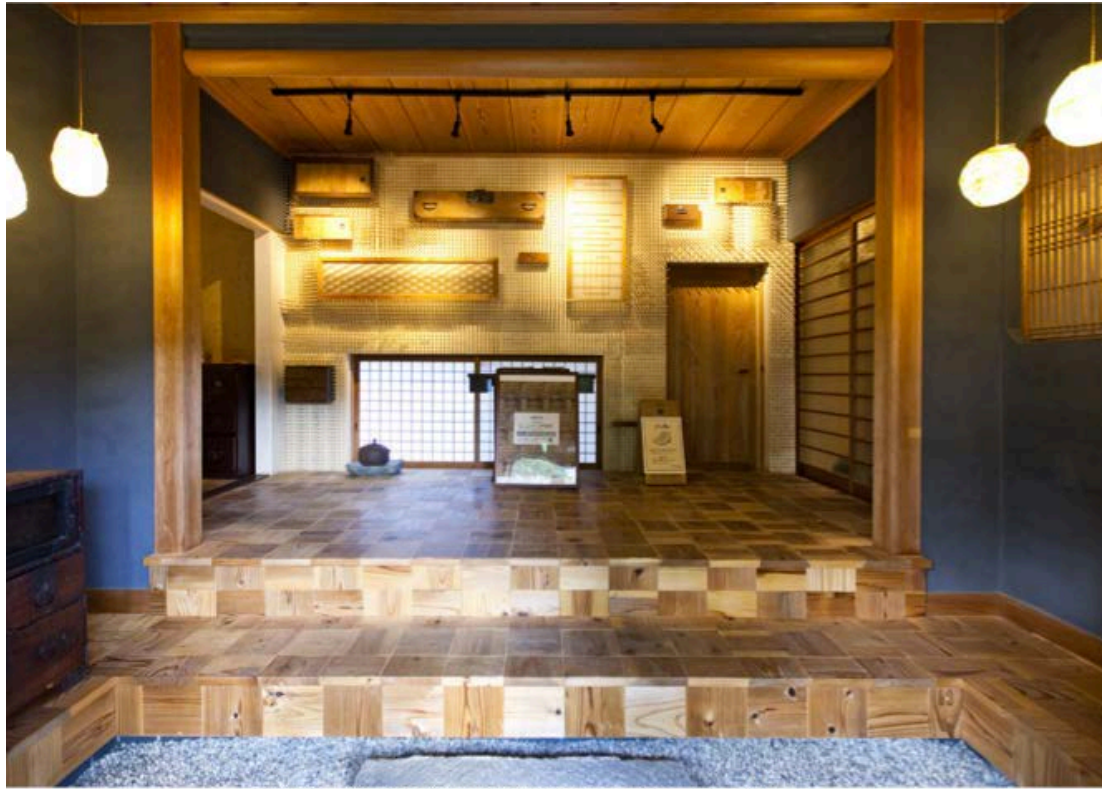
戸田 望さん  
鳥根県浜田市生まれ。カフェ「蔵庭」の店主、マクロビオティック専門のリマッキングスクール創始者兼講師、ナチュラルフードスタイリスト。「Vege & Fork Market」主宰。



岸土純子さん  
鳥根県浜田市生まれ。ベーカリー「tsumugi」店主、広島県三次市のベーカリーショップ「美楽」で10年間の修業を積んだ後、江津に、地元産の食材を使ったパンづくりを営む。

私たちの看板になっていましたから、その看板をそのまま鳥根に移せば、新たな仕事をしてくれるのではと、思い切って移住することにしました。川崎市のマンションを売却し、東京・八王子にある耕一朗さんの実家に引っ越した夫妻。鳥根で1か月間滞在した。カフェができる物件を、最初は浜田市で探したが見つからず、隣の江津市に視野を広げた途端、事は一気に動き出した。「江津の「おのづこ」っておやきを売る店を訪ね、オーナーの大西佐和子さんに会うと、市内で激戦な活動をされている人たちが紹介してくださって」と望さん。「というか」と

耕一朗さん。「その場で電話をかけてくれて」「SUIMONO」の平さん「Yusuno」の余村さん。「エスポート」の藤田さん。「みんな来てもいいよ。近いから行って来よう」と大西さんが言うので、その日のうちに皆さんを訪ね、「カフェを開きたい」と話して回りまして。そしたらいきなり50人くらい、フェイスブックでつながって。このつながりようはなんだって(笑)。一気に江津に吸い寄せられました。」1週間後、大西さんから電話が入った。「パン屋をやりたい子が来るから、会ってみれば?」。戸田さん夫妻は会うことになった。それが今、「蔵庭」で一緒に店舗を構える「EETO」(純麦)の岸土純子さんだ。「私も30歳くらいいとき、将来のことを考えるようになって。パン屋になろうと鳥根三次市のパン屋さんで修業を始めた。10年ほど経って、地元の浜田でお店を開こうと帰省し、「おのづこ」を訪ねたら、大西さんが「昨日、おもしろい夫婦が来たよ」と、戸田さんたちが神奈川県



「蔵庭」の玄関。壁には地域の子供たちが木の棒を1万本以上打ち付け、江津の古民具があしらわれている。

# 鳥根県江津市のカフェ&ベーカリー。 『蔵庭』という場所が 生まれたストーリー。

鳥根県江津市の中山間地に生まれた、カフェ&ベーカリー「蔵庭」。料理も、パンも、建物も、地域の素材で、地域の人たちが手づくり。だからでしょう、みんながワイワイと集まる楽しい場になっています！

photographs by Hiroshi Takaoka text by Kentaro Matsui

**あつという間に50人！  
江津市のつながる力。**  
「あのときが人生のターニングポイントだった」と振り返る出来事が誰にもある。鳥根県江津市の山間の集落でカフェ&ベーカリー「蔵庭」を営む戸田耕一朗さん・望さん夫妻の「あのとき」は、耕一朗さんが34歳のとき。神奈川県川崎市の新百合ヶ丘駅近くにマンションを購入し、マルシェの運営を始めたこと。「このまま会社に雇われる身でいいのか。妻がマクロービの料理人だった

ので、一緒に安心・安全をテーマにしたマルシェ「Vege & Fork Market」を立ち上げた。それがターニングポイントだったかも。」マルシェの認知度は徐々に上がり、お客さんも増えてきた頃、さらに大きな出来事があった。耕一朗さんの父親が痛がなくなったのだ。「考えましたよ」と耕一朗さん。「生きるって何だろうって」と語る。「自分たちらしい生き方を模索しました。思い浮かんだのは妻の実家のある鳥根県。すでに「マルシェをやっている夫婦」と呼ばれ、それが自分



市の空き家バンクに登録されていた築70年の古民家をリノベーション。市議員の無川未栄也さんと一緒に、横浜に暮らす大家さんを取組めたら、「頑張って」とその場で鍵を渡されたとか。家賃は3万円。



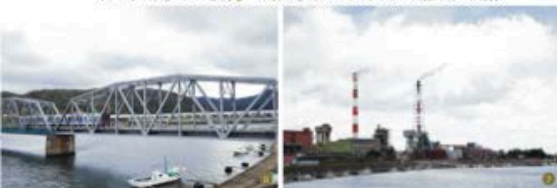
2015年に開催した「リノベーションキャンプ」と、神奈川県で開催しているマルシェ「Vege & Fork Market」のチラシ。





江津には、おもしろい仲間が集まっています!

●「蔵庭」に集まってくれた江津市のソーシャル・リーダーたち。後列右から2人目の市議員の黒川さんは、空き家探しから助成金の申請まで移住者の強い味方となってサポート。●江の川の河口付近には工場も。●江津駅の近く、江の川に架かるJR山陽本線の鉄橋。



大きな蔵と、広い和庭園のある空き家。  
「島根で仕事をつくる」と決めて、  
東京との2拠点生活を楽しくしています!



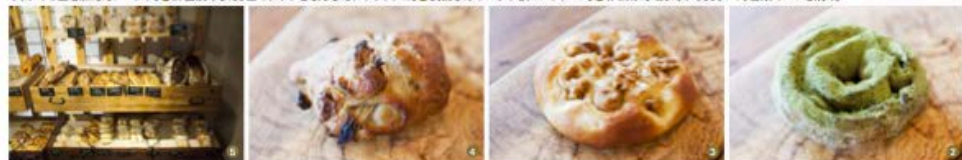
生きていると、しきりにしんどくなる  
こともあります。でも、一人の力じ  
やどうにもならないことを動かした  
いと思つたとき、ニューヨークでは  
なく、僕には江津の環境が必要不可  
欠だと気づいたので。

しかできません。江津ではカタログ  
ではなく地元素材を使うから、完  
成品に多様性を感じられます。江津  
の文化、素材、人が色濃く出るので  
す。「蔵庭」もそう。地域の人が、  
地域の素材を使って手づく  
りすれば、必然的に江津な  
らではの空間が生まれるの  
です。

着々と進む「蔵庭」のお



●国産小麦100パーセントで焼く「sumagi」のパン。惣菜パンにはなるべく地元の野菜を使用。「朝食で栄養が摂れるパンづくりを心がけています」と幹土さん。●有機栽培の桑葉茶を生地に練り込み、かのこ豆を加えたドーナツ。●蜂蜜漬けした3層のナッツを散らしたブリオッシュ。●反田さんのゴボウとクルミのパン。●作業は毎朝3時から。50~70種類のパンを焼く。



地域の人々が、地域の素材で。  
江津市ならではの「場づくり」。

リノベーションキャンプとは、カ  
フエを開くために江津市松川町に借  
りた蔵と庭のある大きな屋敷を、リ  
ノベに賛同のある人たちがワークシ  
ョップスタイルで大工仕事をするプ  
ロジェクト。2015年のゴールデ  
ンウィークに、子どもから大人まで

江津の、人をつなげるスピード感。  
この日も、これだけのみなさんが  
「蔵庭」に集まってくれました!



上/「DESIGN OFFICE SUKIMONO」代表の平下茂樹さん。下/「正しい農業がしたい」と千葉農からリターンし、自然栽培のゴボウを育てている反田孝之さん。



毎日食べるから安全な素材で!



150人以上が参加して行われた。  
指揮を執ったのは、あの日、夫妻が  
訪ねた一人、「DESIGN OFFICE SU  
KIMONO」代表の平下茂樹さん。  
「戸田さんはキラキラした目でやり  
たいことを語っていて、僕もキラキ  
ラした目で聞いていました」と、戸  
田さん夫妻との出会いを振り返る。  
平下さんは、江津生まれ。数年前、  
一流のデザイナーになりたくてニュ  
ーヨークへ向かい、語学学校に通い  
ながら家具工房で図面を描き、家具  
づくりに没頭していた。「ただ、気  
づいたのです。ここには人のつなが  
りがないと。家族や親戚、友達、知  
り合いといった横のつながりも、先  
祖や江津のものづくりの先人との縦  
のつながり。どれだけの人が平下茂  
樹という人間とつながっていたのか  
を痛感しました。つながりのなかで



「蔵庭」にある立派な蔵。まだ活用されていないが、「クラフトビル」が収めるビアホールでもできそう」と耕一郎さん。

1プランに間に合わせようと、  
幹土さんはパン屋の開業資金  
の工面に奔走した。「風のえ  
んがわ」というカフェの多田  
さんに話したら、「江津市の  
ビジョンに出れば?」と勧め  
られました。締め切りは3日  
後でしたが」と笑顔。一次審  
査に通れば融資の支援も受け  
られると、幹土さんは一念発  
起。プレゼンの資料や事業計  
画書を急いでつくった。「皆  
さんのおかげで一次審査にも通り、  
融資を受けることができました」。

が、私はそうは思っていない。誰  
かと競争するために江津へ来たわけ  
じゃないので、私もお返しをするよ  
うにしています」と話す。

競争ではなく、共存。ターニング  
ポイントを経て、東京から江津へ拠  
点を移した戸田さん夫妻は、共存と  
いう地域とのつながりを深めながら、  
新たな人生を歩き出している。

**記者の目**

「正しい農業がしたい」と反田さんは無農薬無肥料のゴボウを栽培。そのゴボウで漬物は料理をつくり、幹土さんはパンを焼く。集まったみんながそれを食べ、「おいしい!」と喜ぶ言葉には、「ありがとう」の意味も含まれていると語った。

結論  
国語辞典には載っていない意味が、  
地方の暮らしにはある。

**01 江津市**  
[島根県]

地形

年平均気温 **15℃** | 標高 **17.5m**

◎おすすめの関わりしるのある  
地元プロジェクトは?  
◀◀◀「蔵庭」代表/戸田耕一郎さん  
●石見地方の職人やクラフト経営、こだわりの  
飲食店が集う「石見生活 幹ノ市」です。

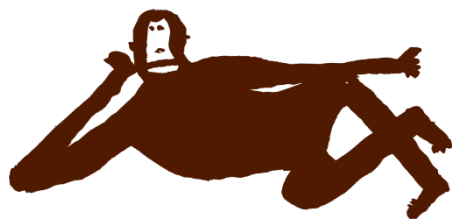
面積/268㎢ | 人口/2万4468人 | 産人別/介護職員、土木作業員  
言語/文房制度/多摩銀行江津支店、江津市Uターン就職支援会、江  
津市ビジネスプランコンテスト | <http://gs-getss.jp>



ローカルベンチャー発祥の地、  
岡山・西粟倉村で起きていること。



ゴミ、捨てんなよ!







上/「森の学校」の製造所では地元の女性たちが多く作業。下/「森の学校」の新社長の井上さん。

8年間で12社が起業！  
岡山県・西栗倉村。山に囲まれる人口141人の村。2014年、同業である「平成の大合併」で人口、自立の道を歩み始めた村が発表された。07年、村に新たな活力を注

新編がまばゆい5月のある日。移住者と村民たちが「西栗倉・森の学校」の校庭に集まった。本誌の撮影のために駆けつけてくれたのだ。カメランの「撮りますよー」の声に合わせてポーズを取る移住者たち。それぞれの人生を経て、今、西栗倉に暮らしている。公務の合間に足を運ぶのが、西栗倉村長もポーズ。「因縁地帯」にあつた西栗倉村は、移住者を呼び入れる情熱が、DNAに刻み込まれている。時代に応じた地域の価値を創り起してほしい。そして移住者たちが、この村から「森の学校」の社長に就任した井上武蔵さんら、「森の学校」はインフラ系。全国の林業地で真似できる。木を扱う仕組み。をつくりだしています」と息を吐きながら話した。

## 岡山県・

ローカルベンチャー発祥の地。  
「平成の大合併」に賢く向け、独自の道を歩む岡山県・西栗倉村。個性豊かなクリエイターから普通の暮らしを築く若者まで、多様な移住者が自分達のローカルベンチャーを立ち上げています。  
photographs by Yusuke Abe text by Kentaro Matsui

「西栗倉・森の学校」を起点にして、生まれ育っているローカルベンチャー。なぜ、この地域がにぎやかなの？

特集  
地方で起業するローカルベンチャー  
Local Venture

# 西栗倉村で起きていること。

雇用対策協議会を設立。毎年には設置された森林を村営で管理することで豊かな森林が再生する。「百年の森林構想」を掲げた。さらに09年、東京から地域再生アドバイザーとして派遣された牧大介さんが「西栗倉・森の学校」を開校。村の木材からプロダクトをつくり、ネット販売する事業をスタートさせた。

雇用対策協議会の設立以来、西栗倉では新たに12社、

ほとどのローカルベンチャーが起業し、売り上げを足すと年間7億円超。70人以上の雇用を生み、1ヶ所でも80人ほどが定住した。移住者は30歳前後の若者が多いが、子どもがいる家族や移住後に出産する女性も増え、3年連続で15人前後の新生児が誕生。亡くなる高齢者も20人ほどおられるが、未来に向かって描かれた種は西栗倉という。森に再生え、着実に根を張っている。西栗倉の新たな、木となるべく活動する、ローカルベンチャーたちが会ってきた。

**NEXT** ローカルベンチャーを楽しむ人たちがこんなにも！

木工職人、段物屋さん、牧場経営、足并み、に「西栗倉・森の学校」に集まる移住者たちと地元の人々の村長たち。  
11992@nifty.jp



喜べ物もお酒も盛りなすよ！

ヒノキワインザー。見てください！

エカハバ、人気です！



Local Venture 3

酒うらら

www.facebook.com/umaeru

飲みに来た人に「横申」を刺す、「出張日本酒バー」を開催!



右/道前さん、中上/「元酒」で「出張日本酒バー」を開催、右上/村のお客さんが、右下/「蔵の心も伝えたい」と厳選の酒を販売、中下/「おすすめては?」、右下/「酒うらら」。

道前理緒さんは、「森の学校」で「酒うらら」という酒屋を営んでいる。地域おこし協力隊では黄色い存在だ。滋賀県のある酒蔵を1週間泊まり込みで取材して以来、日本酒のとりこ

に。「ただ、酒屋というより日本酒バーをやりたいので」と望みをかなえるべく、西栗倉やはかの地域で一晩限定の「出張日本酒バー」を開催。メニューに酒のないカフェやゲストハ

ウス、公民館、村祭りなど呼ばれば日本酒を数本持って、夜な夜な即席の移動式居酒屋を開店している。「お酒を飲むと心が開かれ、その場にいる人と仲良くなれます。普段は話

さないような年齢や職業の人とも「また会ったね」と話そうに、西栗倉でも移住者と村民のあいだに酒をツールに「横申」を刺し、新たな交流を生んでいる。

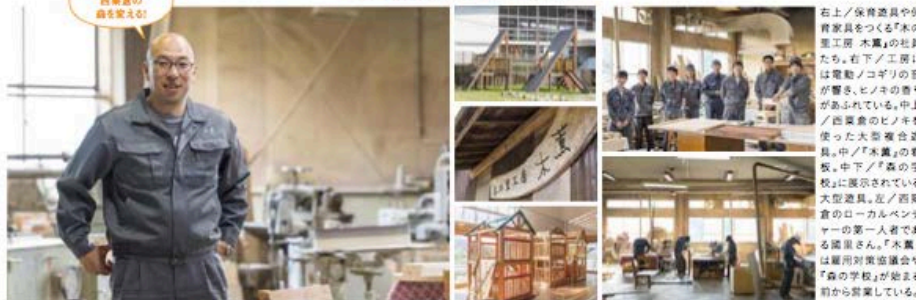
休みの日は?	収入は?	一日の流れ
好きなことを仕事にしているので休日はありません。墓に行ったり、田んぼを見たり。酒が私の人生なので。	会社員時代よりは下がりましたが、支出が少ないので普通に暮らせます。今後、収入が増える日はあります。	1時起床 10時出勤 仕事 22時帰宅 2時就寝

Local Venture 4

木の里工房 木薫

www.mokkun.co.jp

「無理じゃないですか?」を自ら覆すべく森の手入れを実践。



大阪の製菓会社に2年間勤め、故郷の西栗倉に戻り、林業に興味のないまま森林組合に就職した國里哲也さん。23歳頃、ある山主から「どうすれば木は高く売れるだろう?」と問われ、

「無理じゃないですか?」と答えた。「あのかの山主さんの悪癖は忘れませんが。若造の無責任な一言、反省しています」と國里さんは振り返る。2006年、33歳で「木の里工房 木

薫」を設立。西栗倉の森の手入れと、間伐材でつくる保育用具や保育家具を都市部で販売。利益で森を手入れするという循環を実践している。「村が「百年の森林構想」に掲げた

後、村民の山への意識は劇的に変わったと感じています。小学校の総合学習の時間には間伐体験も行ってきます。未来へ向かって、保育用具づくりと森の手入れをつづけますよ。」

休みの日は?	収入は?	一日の流れ
バレーボールが趣味。地元の子供チームをコーチとして指導しています。休日は試合に同行したり。	「木薫」を9年間経営してきて、今年やっと森林組合に勤めていた頃の収入を超えそうです。	1時起床 10時出勤 仕事 21時帰宅 1時就寝

Local Venture 1

木工房ようび

http://youbi.me/nc

家具をつくり、美しい風景を育む。家族のようなローカルベンチャー。



上/ワンダーベンチ「ツタネ」。右上/もらった食材で昼食を。左/「いただきます!」、右下/椅子を磨く大島さん。

上/素敵な椅子とセレクト小物や加工品も販売。下/美さんの赤穂子さんと大島さん。左/子どもが好き、グラフィックデザインができる、育児免許を取ったなど多彩な顔を持つ美子たち。

2009年、岐阜県高山市から移住し、「木工房ようび」を設立した代表取締役・職人の大島正幸さん。西栗倉の「百年の森林構想」を聞き、「懸命に家具をつくれれば、いい森ができ、

いい水が流れ、生きるための雑やかで美しい風景が育まれる。そんな循環を生む家具づくりがモットーを感じ、移住しました」と大島さん。普通は材質が堅い広葉樹でつくる家具を西栗倉

のヒノキでつくり、その性質を徹底的に研究。「ローカルベンチャーで成功するには、どんな事業を始めるかではなく、誰が、どんな姿勢で、どれだけ懸命に取り組むかが大切」と話す。

昼食と夕食は当番制で弟子がつくり、みんなで揃って食べる。「黙々と作業しているので、食卓を一緒に囲むことでコミュニケーションを楽しんでいます」。まるで、家族のようだ。

休みの日は?	収入は?	一日の流れ
木工やデザインの本を読んだり、木工道具を集めたり、子どもと遊んだり。	理想資金に向け、一丸となり頑張っています。現在は一般的な家賃収入よりも月3万~4万ほど多いと思います。	1時起床 10時出勤 仕事 22時帰宅 2時就寝

Local Venture 2

じゅ〜く

www.facebook.com/npohoujin\_juuko

ユカハリ・タイルの節理めも。障害者も西栗倉の森を支える。



右/大橋さん。中上/床下下の段差には木製のスロープを設置。左上/割り箸の検品。右下/ユカハリ・タイルの節理め。中下/ワリパシ・タイルの検品。左下/通所者を募る「プラスワーク」。

「移住者の活躍で西栗倉が盛り上がるなか、障害者ができる仕事もあるはずと2014年に設立しました。「森の学校」の仕事に関わることで、西栗倉の森林再生に少しでも貢献でき

ば」と話すのは、指定障害者就労継続支援B型事業所「プラスワーク」を運営するNPO「じゅ〜く」の理事長・大橋平治さん。通所する知的障害者たちは、「森の学校」の主力商

品であるユカハリ・タイルの節をパテで埋めたり、割り箸の検品作業に勤めています。目標は手取り月額2万円だ。「「プラスワーク」は一般就労に向けた訓練施設。通ううちに仲間と会話

ができ、規律を守るように。2名はコンビニと電気部品工場への一般就労も果たしました。そんな通所者が増え、地元企業の障害者に対する意識が高まることを願っています」

休みの日は?	収入は?	一日の流れ
米、野菜、菓物の農作業と女房修行(笑)。「じゅ〜く」を設立してからは作業所に足を運ぶことも多いです。	スタッフの資金を支払うのが難いばかりで、自分の資金はまだゼロ。「森の学校」の取締役としては16万円です。	1時起床 10時出勤 仕事 22時帰宅 2時就寝



Local Venture 7

ソメヤズスキ

http://somyasuzuki.com

地方は家賃など固定費が安いので、資金に不安な女性も起業しやすい。



右上/染織に使うヨモギ、カラスノエンドウ、マリーゴールド、ヤシャブシ。左上/染織で使った布で縫製した商品。右下/草木を鍋で煮詰めて染料をつくる。中下/ショップは観光地にある立派な店。左下/オーガニックコットンを使用。左/鈴木さん夫妻。

2011年に東京から移住したウェブデザイナーの鈴木宏平さん・菜々子さんファミリー。宏平さんは「東京では営業請けの仕事ばかりでつまらなかつた。西栗倉ではクライアントと直で、

顔の見える仕事ができるので、仕事の意味を感じます。単価もこっちのほうが高いですし」と話す。ある日、パン屋「タルマリー」に出会い、ものづくりで触発された夫妻。武蔵野美術大

学で染織を学んだ菜々子さんは、13年3月に「フレル食堂」とともに難波邸を借り、草木染の布製品を販売する「ソメヤズスキ」をオープンした。「西栗倉周辺は家賃など固定費が

安いので女性も起業しやすいですね」と菜々子さん。子育ての自然環境も抜群で、「長男は東京ではありにも触れなかったけど、今では餅匠と一緒にシカをさばっています」とニコリ。

休みの日は?	収入は?	一日の流れ
休日は日曜。子どもたちと一緒に鳥取に魚を買いに行ったり、密仕事をしたり、週末の仕事をしたり。	染織の収入はこれから。今は真っ赤(笑)。来年からは西栗倉に広い工房を持ち、本格的に事業展開します。	6時起床 17時帰宅 19時出勤 21時仕事(家で) 1時就寝

Local Venture 8

ablabo.

http://ablabo.org

94歳のおじいさんから直伝! 調味料としての油の魅力を伝える。



右/大林さん。右上/瓶詰めされたオイルが並ぶ。左エ/ハブやブレンドなどオリジナルのオイルを製造。右下/「森の学校」のユカハリ・タイトルでリノベーション。左下/菜種油とコナツツオイルをブレンド。

油の魅力を伝えるのは、「ablabo.」の大林由佳さんだ。「小豆島に旅して、ソーマン工場を見学したら、揚げソーマンにオリーブオイルをつけて食べるよう工場のおじいさんに勧められ、

半信半疑で食べたとしてもおいしかったのです」。以来、油にはまってしまった大林さん。岡山県津山市に、昔ながらの搾り方で菜種油をつくっている94歳のおじいさんがいると聞いて訪

ね、その場で搾り取り、搾り方を学び、自分の油づくりに生かしている。「調味料としての楽しみ方を伝えたいです」と、新店舗のリノベーションを行いながら話す大林さん。「西栗倉

には先輩や仲間がたくさんいて励みになります。お風呂上りや雨の日のオイルを開発して、「元湯」で販売するなどコトバもできます」と、西栗倉のローカルベンチャーの魅力を語った。

休みの日は?	収入は?	一日の流れ
とくに休日はありません。必要ないです。油業界の集まりや出張に出かけています。	売り上げは変動があり、月10万~30万円。仕入れや出張費でほとんど手元に残りませんが、生活費が安いです。	6時起床 20時帰宅 19時出勤 仕事 21時仕事(家で) 3時就寝

Local Venture 5

フレル食堂

http://hambavi.com/shop/tenryu-gyokudo

ジビエ料理シェフと木工職人。仕事も暮らしも自分らしく!



上/インシペコンとアスパラのソテー。右下/オオスズメバチのササギの白ワイン煮。中下/シカレバーのムース。左下/インシペコンのデザート。

上/「フレル食堂」が入る「難波邸」。下/シカ肉のロースト。左/赤ちゃんを抱く山田さんと西原さん。

西栗倉に住み、隣の古町にある「難波邸」でジビエ料理を振る舞う「フレル食堂」を営む西原貴美さんと山田哲也さん。大阪から移住して「森の学校」に勤め、西栗倉で入籍。

西原さんは「フレル食堂」を、山田さんは木工職人として活動している。二人は「地域のことを考えて働いているわけではありません」と言い切る。「地域の魅力を最大限に使い、自分

たちが楽しいと感じる仕事や暮らしを实践しているだけ」。積極的に地域に溶け込もうとはしないが、食べ物をもらったり、交換する機会は増えた。「散歩中に近所さんから「一杯、飲んで

け」と声をかけられ、半時間ほど話し込んだり(笑)。そんな自然なつながりが好きです」と西原さん。「自分たちが楽しんでいる人が増えれば、地域は自然と盛り上がるはず」。

休みの日は?	収入は?	一日の流れ
おいしいものを食べていたり、鍋祭りや器の窯元さんを訪ねたり。買い出しや仕込みもしています。	「フレル食堂」の売り上げは30万円前後。山田さんは月によってバラツキがあり、平均すると20万~30万円。	6時起床 17時帰宅 19時出勤 仕事 21時仕事 23時就寝

Local Venture 6

村楽エナジー

www.sonaku-energy.com

温泉の新ボイラーを運用。村の期待に応え、仕事を拡大。



右/井筒さん。右上/午前7時、薪が到着。中上/ヒノキや杉を薪に。右下/薪ボイラーと貯湯タンク。中下/薪火。左上/交流の場でもある「元湯」。2016年4月にリニューアルオープン。左中/薪づくりの様子がある浴室。左下/「元湯」のスタッフ。

薪を燃やしてあったかい温泉に!

日帰り温泉&ゲストハウス&カフェ「元湯」の運営、木質バイオマスによる熱供給、コンサルティングを業務にする「村楽エナジー」。村が「黄金泉」に導入した新ボイラーの運用も

任されている。その仕組みは、林業から丸太を1トン6000円で購入し、3000円を現金で、3000円を地域通貨で支払う。それを1万3000円で「黄金泉」に販売。7000円が「村楽エナ

ジー」の利益となる。丸太は薪にして、ボイラーで燃焼。14度の冷泉を温める。燃料費は灯油の7~8割程度。「今年から地域熱供給の計画も始まります」と、代表の井筒耕平さん。

環境エネルギー政策研究所のコンサルタントだったが、現場を知りたいと西栗倉へ移住。「移住者は村から期待されることに応える。そうすれば、信頼と仕事を得られるはず」。

休みの日は?	収入は?	一日の流れ
「元湯」の休みは月2ですが、ほかにも仕事があり、休めていませんね(苦笑)。「鳥の劇場」には行きました。	以前、岡山県栗原市で地域おこし協力隊として活動していましたが、そのときよりも収入は少し上がりました!	6時起床 21時帰宅 19時出勤 仕事 21時仕事 23時就寝



## 「西栗倉・森の学校」の校長に聞きました！ 牧大介さんの ローカルベンチャー論。

牧さん、ローカルベンチャーを始めるにはどうすればいいですか？  
西栗倉村でのローカルベンチャーの受け入れ方や始め方、そして魅力や、  
牧さんらしく「森の生態系」に喰えながら答えてくれました。

photographs by Yusuke Abe text by Kentaro Matsui

「わけわからんけど、採用」。そんな言葉が移住者を育てる。西栗倉にたくさんのローカルベンチャーが起業している理由は、村民や役員職員が移住者や地域おこし協力隊に対して寛容だからだと思います。例えば、家具職人の大島さんは、雇用対策協議会発足後に受け入れた初めてのローカルベンチャーで、

「ヤリでした。ただ、大島さんには資金も工房もありません。なのにな、つくるとは高価な材料で勝負したい」と強気な姿勢を貫くのです。役員職員も住民も、「家具ペカのお兄ちゃんが出来た」と親しみを込めつつもある程度の距離を置かざるを得ませんでした。役場の移住受け入れの担当者も、「この村でそんな高い家具が売れるなんてことがあるのかな」と半



牧大介  
まき・だいすけ 1974年東京都府中生まれ。京都大学大学院農学研究科修了。2006年地産地消生マネージャーとして西栗倉村に赴任。09年株式会社「西栗倉・森の学校」を設立。代表取締役社長として移住者の雇用や住宅確保に取り組み。

「地方で起業しても全国にネット販売できる。開業性の高い人どうしのコミュニティは形成されやすい。一定のお客さんがつけば、大儲けはしなくても食べていけます。会社の手段になることなく、その人らしくありたいという生き方を中心に置いて成り立ち、それがローカルベンチャーの魅力なのです。」

地方で起業しても全国にネット販売できる。開業性の高い人どうしのコミュニティは形成されやすい。一定のお客さんがつけば、大儲けはしなくても食べていけます。会社の手段になることなく、その人らしくありたいという生き方を中心に置いて成り立ち、それがローカルベンチャーの魅力なのです。

### 日本の離れた森ですが、移住者を介してつながる。

ローカルベンチャーは、個人事業主として営業する「家族型」も、個人数で家族のように営業する「拡大家族型」、一般の会社のような「事業型」の3つに分けられると思います。森で言えば、低層・中層・高層木です。森にはそれぞれの役割があり、年間数億円を売り上げる「事業型」の社員が勤し、「家族型」の苗木として新たな価値の創出を担います。

### 小さな魚一匹二匹が群れをつくって、大きな魚よりも強くなる感じ。僕は「スイミー作戦」って呼んでいます。



上/「木工園ようび」の大島さんが作る椅子の産地の産り心地を試す牧さん。下/西栗倉に来て9年、これまでの足跡とこれからの歩みを「森の学校」で語ってくれた。

「スイミー」の大村さんや「フレッド」の大島さんもちの社員でした。そんな苗木を含め、多種多様な生態系が形成されていくことが、儲かる。移住者や協働の魅力を指すことにつながるのです。ジェイ・オネオニの絵本「スイミー」のように、小さな魚一匹二匹が群れをつくらって、大きな魚よりも強くなる感じ。名づけて「スイミー作戦」です(笑)。

移住者は地味のためではなく、むしろ自分を大事にしながら生きています。その結果として地味が生まれ、多量性や全体性が育まれているのです。受け入れる側は、ただローカルベンチャーが生まれやすいうえ、土づくりにだけ力を入れたら、森にいい土があれば、勝手に草が生え、木も育ちます。土づくりにだけ力を入れたら、森の資源「この森にはこんな木が生えるべき」と地域が必要以上に手をかけすぎると、たいしては無い。苗にはなりません。

ローカルベンチャーのための土壌形成が進んでくると、元々あったネイティブの生態系と融合できるようになります。西栗倉では、古くからあるビジネスを継ぐ若い世代が移住者の活躍に刺激を受け、第二創業的な取り組みを始め、一歩に何かやろうという機運が生み始めています。例えば、大島さん。うちが木材の提供だけでなく、施工も含めて請け負った仕事を引継いで、東京でリノベーションしてきてもらったり。ネイティブとの連携こそが西栗倉の次のステップだと考えています。

### 牧大介さんのローカルベンチャーのキーワード

#### 地域の寛容さ

ローカルベンチャーを受け入れる地域は、理解できない価値を持つ移住者を、まずは自由に活動させてみる。

#### 去っても行き来する

ローカルベンチャーは安さの自由。ほかの地域で起業すれば、ぜひ行き来してアイデアを交換してほしい。

#### ネイティブとの連携

もともと仕事をしていたネイティブの社長とも連携すれば、地域という「森」の生態系はさらに豊かに。



# ぼくらが地方で幸せを見つける ソーシャルな視点

1. 関係人口を増やす
2. 未来をつくっている手応え
3. 「自分ごと」として楽しい



ご清聴

ありがとうございました。  
最新号は好評発売中！  
特集「地域と関わる  
ローカルプロジェクト」







ゴミ、捨てんなよ!

